

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2023/24 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

- ・チュニジア等で下方修正されたものの、EU 等で上方修正され、前月から上方修正された。

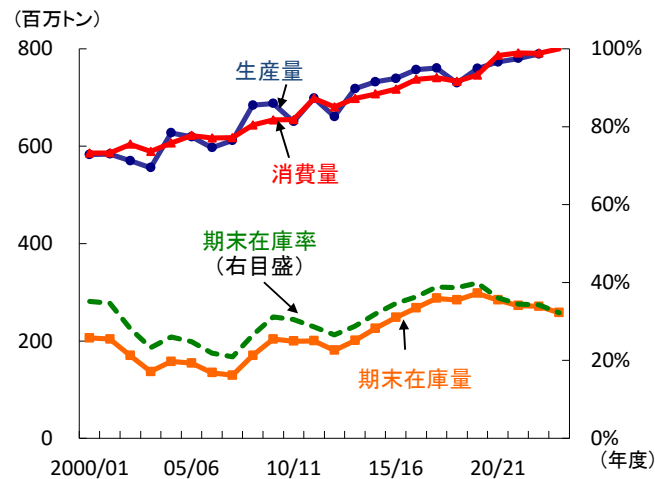
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・ロシア、米国等で下方修正されたものの、インド、EU 等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

- ・EU 等で下方修正されたものの、ウクライナ、ロシア等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



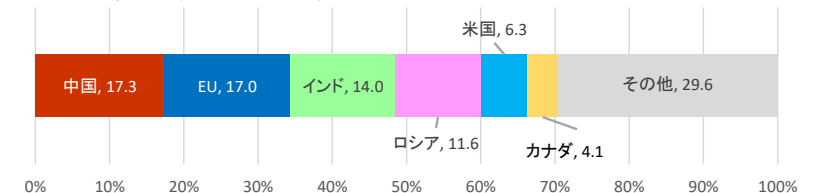
◎世界の小麦需給

(単位: 百万トン)

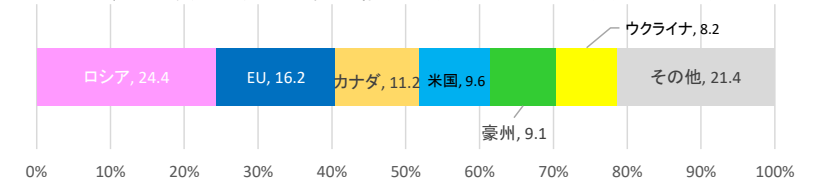
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	780.4	789.3	787.4	0.7	▲ 0.3
消 費 量	791.3	791.0	800.1	1.1	1.1
うち飼料用	160.7	155.2	161.3	▲ 0.7	4.0
輸 出 量	202.8	220.2	213.5	1.3	▲ 3.0
輸 入 量	200.2	212.0	212.3	1.1	0.2
期末在庫量	272.7	271.0	258.3	▲ 0.6	▲ 4.7
期末在庫率	34.5%	34.3%	32.3%	▲ 0.1	▲ 2.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (11 April 2024)

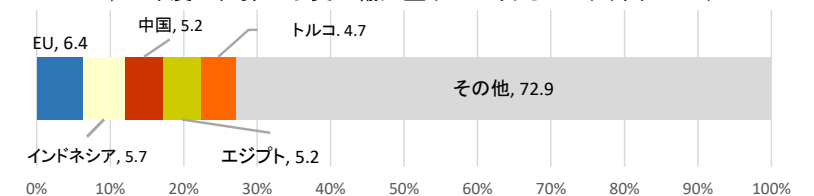
○ 2023/24年度の世界の小麦の生産量(787.4百万トン)(単位: %)



○ 2023/24年度の世界の小麦の輸出量(213.5百万トン)(単位: %)



○ 2023/24年度の世界の小麦の輸入量(212.3百万トン)(単位: %)



（２）国別の小麦の需給動向

＜ 米国 ＞ 2024/25 年度の小麦の作付意向面積は前年度比 4.2%減少

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 49.3 百万トンと、前年度に比べ 9.8%増、過去 5 年平均(48.6 百万トン)に比べ 1.4%増となる見込み。種類別には、冬小麦が 34.0 百万トン(前年度比 13.1%増)、春小麦が 13.7 百万トン(同 4.6%増)、デュラム小麦が 1.6 百万トン(同 7.3%減)。

USDA「Prospective Plantings」(2024.3.28)によれば、2024/25 年度の作付意向面積は、19.22 百万ヘクタール（前年度比 4.2%減）。種類別では、冬小麦は 13.81 百万ヘクタール(同 7.0%減)と減少幅が大きい。「Wheat Outlook」(2024.4.15)によれば、小麦が相対的に収益の高いとうもろこしと大豆の輪作に組み込まれたことが要因の一つとみられる。他方で、デュラム小麦は 0.82 百万ヘクタール(同 21.0%増)で、米國小麦連合会によれば、米国産デュラム小麦の価格がフランス産やカナダ産の価格に比べ高い水準であることが要因とみられる。春小麦は 4.59 百万ヘクタール(同 1.2%増)となっている。

USDA「Crop Progress」(2024.4.15)によれば、冬小麦は出穂が始まっており、作柄は「やや良～良」の割合が 55%と、干ばつの影響があった前年度の 27%から 28 ポイント増加している。

また、春小麦の作付けが開始されているが、主要生産 6 州（アイダホ州、ミネソタ州、モンタナ州、ノースダコタ州、サウスダコタ州、ワシントン州）の作付進捗率は 7 %となっており、前年度同期の 3 %、過去 5 年平均の 6 %を上回っている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測から変更はなく 19.3 百万トンと、前年度に比べ 6.4%減少し、1972/73 年度以降で最低の見込み。2023 年 6 月～2024 年 2 月の輸出量は、13.6 百万トンと、前年度同期の 16.2 百万トンを 16%下回る見込み。4 月 8 日時点のハード・レッド・ウインター（HRW）の輸出価格（FOB）は、272 ドル/トンとなっており、主要輸出 6 か国(米国のほか、カナダ、豪州、EU、ロシア、アルゼンチン)の輸出価格と比較するとカナダ 283 ドル/トンに続き高い水準であり、国際市場での価格競争力が乏しい状態である。

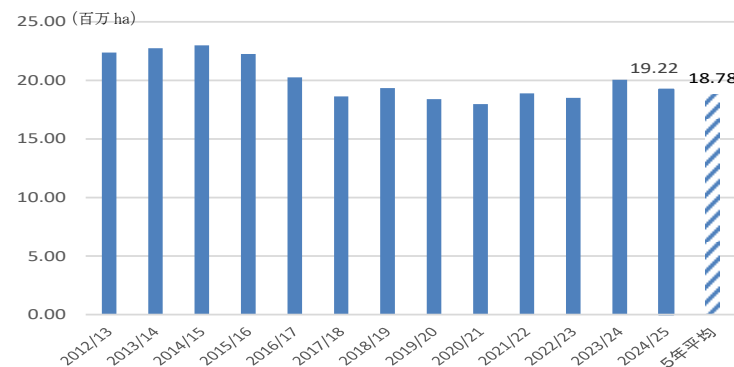
2023/24 年度の期末在庫量は、飼料用の消費量が下方修正されたこと等から、前月予測から 0.7 百万トン上方修正され、19.0 百万トン（前年度比 22.5%増）の見込み。

小麦－米国（冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割）

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24（23年6月～24年5月）		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	44.8	44.9	49.3	-	9.8
消費量	30.4	30.4	30.3	▲ 0.8	▲ 0.3
うち飼料用	2.4	2.1	2.5	▲ 0.8	17.2
輸出量	21.7	20.7	19.3	-	▲ 6.4
輸入量	2.6	3.3	3.8	▲ 0.1	14.8
期末在庫量	18.4	15.5	19.0	0.7	22.5
期末在庫率	35.3%	30.4%	38.2%	2.0	7.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	15.03	14.36	15.08	-	5.0
単収(t/ha)	2.98	3.13	3.27	-	4.5

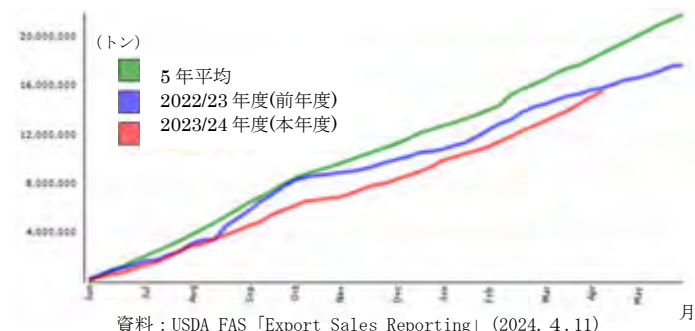
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(11 April 2024)

図：米国産小麦の作付面積の推移（2012/13～2024/25 年度）



資料：USDA「PS&D」(2024. 4. 11)をもとに農林水産省で作成

図：米国産小麦の輸出量の推移



資料：USDA FAS「Export Sales Reporting」(2024. 4. 11)

＜ カナダ ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度比 8.3%増の 34.6 百万トン

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2024.4.19)によれば、2023/24 年度の小麦全体の生産量は、前月予測からの変更はなく 32.0 百万トンと、前年度に比べ 6.9%減少するものの、過去 5 年平均に比べ 1.6%増加の見込み。種類別の生産量は、普通小麦は収穫面積が増加するものの、干ばつによる単収の低下を受け 27.9 百万トンと前年度比 2.2%減少も、5 年平均比では 6.5%増加。デュラム小麦は、干ばつによる収穫面積の減少と単収の低下を受け 4.0 百万トンと前年度比 29.9%減、5 年平均比 22.7%減の見込み。

カナダ統計局「Principal field crop areas, 2024」(2024.3.11)によれば、2024/25 年度の作付意向面積は、10.95 百万ヘクタール(前年度比 0.1%増)となる見込み。種類別には、春小麦は 7.78 百万ヘクタール(同 1.2%減)、デュラム小麦は 2.57 百万ヘクタール(同 5.1%増)の見込み。2023/24 年度のデュラム小麦生産量が干ばつにより大きく減少し、需要に対して供給が足りていないことからデュラム小麦の作付けが増加したものとみられる。冬小麦の面積は 0.59 百万ヘクタールとなっている。

AAFC によれば、2024/25 年度の小麦全体の生産量は、前月予測から変更はなく、前年度比 8.3%増の 34.6 百万トンの見込み。なお、単収は干ばつから回復し例年並みになるとしている。種類別の生産量は、普通小麦は、前年度比 3.7%増の 28.9 百万トン。デュラム小麦は、作付面積の増加と単収の回復から前年度比 39.8%増の 5.7 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 23.5 百万トンと、生産量の減少を受け前年度比 8.6%減少の見込み。種類別の輸出量は、普通小麦は 20.3 百万トンと、前年度に比べ 1.8%減少。デュラム小麦は 3.2 百万トンと、生産量減少による輸出余力低下と豊作となったトルコとの競合の強まり等を受け前年度に比べ 36.7%の減少。

カナダ穀物委員会(CGC)によれば、2024 年 2 月の輸出量は、普通小麦が 189.8 万トンで、輸出先国は中国(22.6%)、バングラデシュ(15.7%)、インドネシア(9.7%)の順。デュラム小麦は 30.0 万トンで、アルジェリア(47.7%)、モロッコ(19.4%)、米国(16.3%)の順。

AAFC によれば、2024/25 年度の輸出量は、前年度比 4.9%増の 24.6 百万トンの見込み。種類別には、普通小麦は、国際的な供給増等により前年度比 0.7%減の 20.1 百万トンとなった一方、デュラム小麦は前年度の干ばつの影響による供給不足を受けた需要回復の期待から前年度比 40.6%増の 4.5 百万トンとなる見込み。

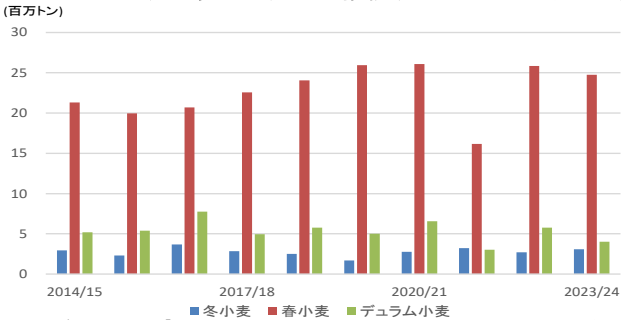
小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年8月～24年7月)		
			予測値、() はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	22.4	34.3	32.0 (32.0)	-	▲ 7.0
消 費 量	10.2	9.5	8.7 (8.6)	-	▲ 7.9
うち飼料用	5.2	4.3	3.5 (4.1)	-	▲ 18.8
輸 出 量	15.1	25.6	24.0 (23.5)	-	▲ 6.2
輸 入 量	0.6	0.6	0.6 (0.1)	-	9.1
期末在庫量	3.7	3.5	3.4 (3.6)	-	▲ 4.0
期末在庫率	14.5%	10.0%	10.3% (11.1%)	-	0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.20	10.08	10.68 (10.68)	-	6.0
単収(t/ha)	2.44	3.41	2.99 (2.99)	-	▲ 12.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 April 2024)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(19 April 2024)

図 カナダ産小麦の生産量の推移(冬・春・デュラム小麦)



資料：AAFC 「Outlook for Principal field crops」(2024.4.19)のデータ
をもとに農林水産省で作成

表 カナダ産小麦の輸出量と輸出先国 (2024 年 2 月)

(輸出量:万トン、シェア%)

普通小麦			デュラム小麦		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
中国	42.9	22.6	アルジェリア	14.3	47.7
バングラデシュ	29.8	15.7	モロッコ	5.8	19.4
インドネシア	18.4	9.7	米国	4.9	16.3
日本	14.5	7.6	イタリア	2.7	9.0
グアテマラ	9.8	5.2	ベネズエラ	1.0	3.3
その他	74.4	39.2	その他	1.3	4.3
	189.8	100.0		30.0	100.0

資料：「Canadian Grain Commission」のデータをもとに農林水産省で作成

＜ 豪州 ＞ 2023/24 年度の輸出量はアジア向けの輸出が好調で 0.5 百万トン上方修正

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予想からの変更はなく、26.0 百万トンの見込み。史上最高の前年度に比べ、降雨不足による単収の低下と収穫面積の減少から 35.9%減少するものの、10 年平均(26.5 百万トン)に比べ 1.8%の減少とほぼ平年並みの見込み。

豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian Crop Report」(2024.3.5)によれば、2023/24 年度の実生産量は、ニューサウスウェールズ(NSW)州等での生産量の引上げを受け前回の 12 月予測から 0.5 百万トン上方修正され 26.0 百万トンと、史上最高の前年度(40.5 百万トン)から 36.0%減少するものの、過去 10 年平均比(26.5 百万トン)2.0%の減少に留まる見込み。

主要生産州では、ウェスタンオーストラリア州(WA 州)の実生産量は、乾燥した天候が続いたことから、7.7 百万トンと前年度比 47% 減であり、過去 10 年平均比でも 20%減の見込み。なお、生産量は減少したものの、タンパク質含有量は高い水準となった。ニューサウスウェールズ州(NSW 州)の実生産量は、北部において乾燥した天候が続いたことから、7.1 百万トンと前年度比 33%減であるも、過去 10 年平均比では 4 %減に留まる見込み。サウスオーストラリア州 (SA 州) の実生産量は、乾燥した天候が続いたことから、4.8 百万トンと前年度比 35%減である一方、過去 10 年平均比では 8 %増の見込み。また、同州の一部では収穫期の降雨を受け品質が低下した。

西豪州穀物産業協会 (GIWA) (2023.4.19)によれば、西豪州の大部分が乾燥し、土壌水分量も低い状態となっている。また、豪州気象局の季節予測によれば、5 月に入っても乾燥した状態が続く可能性が高いことが示されており、2024/25 年度の実小麦の作付面積の見込みは 4.96 百万ヘクタールの予想であるが、土壌水分量の不足により、小麦から大麦等への作付けの変更を受けた作付面積の減少や、生産量の減少につながる可能性がある。

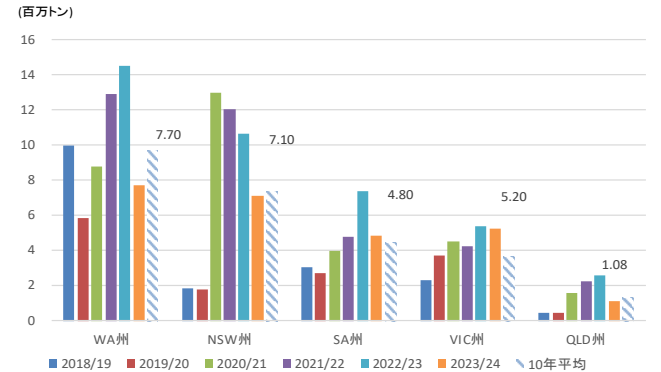
【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の実輸出量は、アジア市場向けの輸出が好調なことから前月予測から 0.5 百万トン上方修正され 20.5 百万トンの見込み。過去最高の前年度に比べ、乾燥天候による生産量の減少から 35.6%減少するものの、10 年平均(18.9 百万トン)比では 8.4%増加。ABARES によれば、2024 年の 2 月の輸出量は 231.2 万トンで、輸出先国は、中国(25.5%)、インドネシア(23.6%)、フィリピン(7.0%)の順となっており、アジア市場向けの輸出が多くなっている。

小麦－豪州(冬小麦を主に栽培)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	(単位：百万トン)				
			2023/24(23年10月～24年9月)				
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)		
生 産 量	36.2	40.6	26.0 (30.1)	-	▲ 35.9		
消 費 量	8.5	8.0	7.0 (8.3)	-	▲ 12.5		
うち飼料用	5.0	4.5	3.5 (4.5)	-	▲ 22.2		
輸 出 量	27.5	31.8	20.5 (21.0)	0.5	▲ 35.6		
輸 入 量	0.2	0.2	0.2 (0.3)	-	-		
期末在庫率	3.5	4.4	3.1 (3.9)	▲ 0.5	▲ 29.7		
期末在庫率	9.6%	11.0%	11.2% (13.4%)	▲ 2.1	0.2		
(参考)							
収穫面積(百万ha)	12.73	13.05	12.50 (12.42)	-	▲ 4.2		
単収(t/ha)	2.85	3.11	2.08 (2.09)	-	▲ 33.1		

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 April 2024)
IGC 「Grain Market Report」(14 March 2024)

図 豪州の州別小麦生産量の推移



資料：ABARES「Australian Crop Report(2024.3.5)」をもとに農林水産省で作成

表 豪州産小麦の輸出状況

2024年2月		
国 名	輸 出 量	シェア
中国	58.9	25.5
インドネシア	54.5	23.6
フィリピン	16.2	7.0
韓国	14.7	6.4
日本	11.9	5.1
その他	75.0	32.4
計	231.2	100.0

資料：ABARES「Trade dashboard (beta)」をもとに農林水産省で作成

< EU27 > 2023/24 年度の輸入量は史上最高の 13.5 百万トン

【生育・生産状況】欧州委員会(2024.3.27)によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、132.6 百万トンと、前年度比で 0.5%減少も過去 5 年平均比では 0.8%増加する見込み。

小麦全体のうち普通小麦は 125.6 百万トンと、前年度比で 0.2%減少するも 5 年平均比では 1.5%増加。また、デュラム小麦は 7.0 百万トンと、前年度比で 6.3%減少となるとともに、5 年平均比でも 10.3%減少する見込み。

欧州委員会によれば、2024/25 年度の作付面積は、22.9 百万ヘクタールと前年度比で 4.2%減少する見込み。小麦全体のうち、普通小麦は 20.9 百万ヘクタールと前年度比で 3.7%減少する見込みであるとともに、デュラム小麦も 2.0 百万ヘクタールと、前年度比で 8.8%減少する見込み。これらは、秋の多雨により冬小麦の作付けが困難になったため、フランス、ドイツ等で作付面積が減少したことや、過剰な降雨によりチェコ、オーストリア、フランス等で前年度から単収が減少する見込みであることによる。

フランスアグリメールによれば、4 月 1 日時点でのフランス産小麦の生育状況については、「良～優良」の割合は、普通小麦は 65%、デュラム小麦は 72%と、それぞれ前年度の 93%、92%を下回っている。

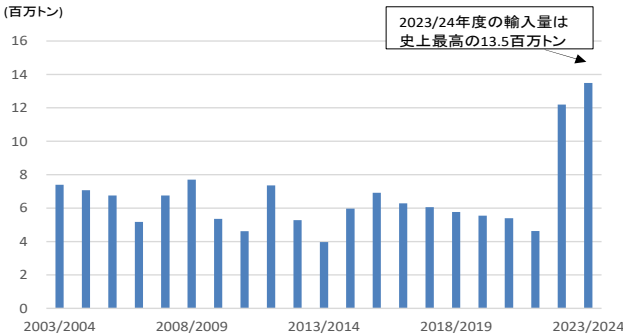
【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸入量は、価格競争力のあるウクライナからの輸入が増加していることから 13.5 百万トンと、前年度及び過去 5 年平均をそれぞれ 11.5%、101.9%上回り史上最高となる見込み。

輸出量は前月予測から 2.0 百万トン下方修正され 34.5 百万トンと、前年度比で 1.7%減であるものの、過去 5 年平均比では 7.0%増の見込み。4 月 8 日時点でのフランス産小麦の輸出価格 (FOB) は 222 ドル/トンである一方、ロシア産小麦の輸出価格は 211 ドル/トンとなっており、ロシア産小麦の輸出価格は上昇しているものの、引き続き価格競争力のあるロシア産小麦との競合により、サウジアラビアやアルジェリアといった中東及び北アフリカでの市場シェアを減らしており、輸出量が減少している。

小麦－EU27 (冬小麦を主に栽培)

(単位：百万トン)						
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24(23年7月～24年6月)			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	138.5	134.3	134.2 (130.5)	0.4	▲ 0.1	
消 費 量	108.3	109.0	112.5 (108.7)	1.0	3.2	
うち飼料用	45.0	45.0	48.0 (44.5)	1.0	6.7	
輸 出 量	31.9	35.1	34.5 (32.3)	▲ 2.0	▲ 1.7	
輸 入 量	4.6	12.2	13.5 (6.4)	0.5	10.7	
期末在庫量	13.6	16.0	16.7 (14.6)	1.5	4.1	
期末在庫率	9.7%	11.1%	11.4% (10.4%)	1.1	0.2	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	24.29	24.40	24.20 (23.89)	▲ 0.02	▲ 0.8	
単収(t/ha)	5.70	5.50	5.54 (5.46)	0.02	0.7	
資料：USDA	「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、					
	「World Agricultural Production」(11 April 2024)					
IGC	「Grain Market Report」(14 March 2024)					

図 EU の小麦輸入量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024. 4. 11)をもとに農林水産省で作成

表 EU の普通小麦の輸出量と輸出先国

2023年7月～2024年1月			2022年7月～2023年1月		
国名	輸出量	シェア (%)	国名	輸出量	シェア (%)
モロッコ	313.7	14.5%	モロッコ	287.3	14.2%
アルジェリア	211.0	9.7%	アルジェリア	267.2	13.2%
ナイジェリア	191.5	8.8%	エジプト	162.9	8.0%
エジプト	143.2	6.6%	ナイジェリア	157.9	7.8%
中国	130.8	6.0%	サウジアラビア	106.7	5.3%
インドネシア	105.0	4.8%	中国	103.0	5.1%
その他	1,070.9	49.4%	その他	941.6	46.5%
合計	2,166.1	100.0%	合計	2,026.6	100.0%

資料：欧州委員会「Cereals exports and imports」をもとに農林水産省で作成

< 中国 > 2024/25 年度の冬小麦の生育は概ね順調

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、136.6 百万トンの見込み。収穫面積は増加したものの単収の低下から、史上最高の前年度(137.7 百万トン)に比べ、生産量は 0.8%減少するものの、過去 5 年平均の 134.8 百万トンを 1.3%上回る。なお、収穫前に豪雨に見舞われた影響を受け、生産量が減少するとともに生産量に占める飼料用グレード小麦の割合が増加した。

中国国家気象センター「中国気象農業頻道」の 4 月上旬の情報によれば、2024/25 年度の冬小麦については、気温が平年に比べ高く、また、ほとんどの地域で土壌水分状態に恵まれたことから、生育は概ね順調となっている。

3 月末から 4 月初めの冬小麦の生育段階は、河北省等では分けつ期となっており、河南省、山東省、安徽省、江蘇省等では節間伸長期、湖北省等では開花期に入っている。なお、生育は平年並みか平年より若干早くなっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測から変更はなく、153.5 百万トンの見込み。このうち飼料用消費量は、2023 年 5 月の降雨による品質低下に伴う飼料用グレード小麦が増加を受けて飼料用需要が増加したことから 37.0 百万トンと、前年度に比べ 12.1%増加する見込み。

中国農業農村部「中国農産品供需形勢分析月報」によれば、国内小麦の品質低下による高品質小麦の国内需給の逼迫と国際小麦価格の低下を受け、2023 年の小麦及び小麦製品の輸入量は、増加している。

中国海関統計によれば、2023 年 1 月から 12 月までの輸入量合計は 1,209.9 万トンで、前年に比べ 21.5%増加。同期間の輸入先国別のシェアは、豪州 57.4%(前年度同期 57.5%)、カナダ 21.1%(同 18.0%)、フランス 6.8%(同 17.1%)、米国 7.7%(同 6.3%)の順で、豪州とカナダの 2 か国で輸入シェアの 79%を占めている。2024 年 1 月から 2 月の輸入量は 250.3 万トンで、豪州が 96.4 万トン、カナダが 63.6 万トン、フランスが 44.0 万トン、米国が 33.6 万トンとなっており、豪州の輸入シェアは減少したものの、依然として約 40%と高い水準となっている。

小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年7月～24年6月)			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	137.0	137.7	136.6 (138.0)	-	▲ 0.8	
消 費 量	148.0	148.0	153.5 (146.3)	-	3.7	
うち飼料用	35.0	33.0	37.0 (28.0)	-	12.1	
輸 出 量	0.9	1.0	0.9 (1.2)	-	▲ 5.3	
輸 入 量	9.6	13.3	11.0 (10.7)	-	▲ 17.2	
期末在庫量	136.8	138.8	132.0 (139.7)	-	▲ 4.9	
期末在庫率	91.9%	93.2%	85.5% (94.8%)	-	▲ 7.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	23.57	23.52	23.63 (23.63)	-	0.5	
単収(t/ha)	5.81	5.86	5.78 (5.78)	-	▲ 1.4	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 April 2024)
IGC 「Grain Market Report」(14 March 2024)

図 中国の小麦生産量、消費量、輸入量の推移

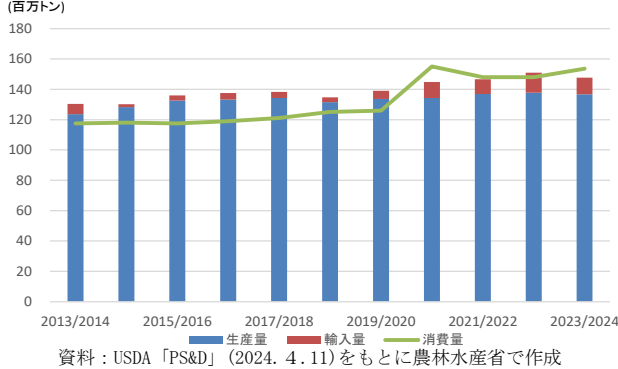


表 中国の小麦輸入量と輸入先国

2024年1月～2024年2月			2023年1月～2023年12月		2022年1月～2022年12月	
国 名	輸入量	シェア	輸入量	シェア	輸入量	シェア
豪州	96.4	38.5	693.9	57.4	572.2	57.5
カナダ	63.6	25.4	254.8	21.1	179.1	18.0
フランス	44.0	17.6	82.5	6.8	170.4	17.1
米国	33.6	13.4	92.6	7.7	62.6	6.3
カザフスタン	6.6	2.6	51.9	4.3	3.6	0.4
ロシア	5.6	2.2	28.5	2.4	4.0	0.4
その他	0.5	0.2	5.7	0.5	4.0	0.4
計	250.3	100.0	1,209.9	100.0	996.0	100.0

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

< ロシア > 2023/24 年度の輸出量は史上最高の 52.0 百万トン

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の生産量(クリミア地域分を含まず)は、前月予測からの変更はなく、91.5 百万トンの見込み。史上最高であった前年度(92.0 百万トン)に比べ 0.5%減少するものの、過去 5 年平均(79.6 百万トン)を 15.0%上回り史上 2 位となる見込み。

種類別の生産量は、冬小麦及び春小麦とも前月予測からの変更はなく、それぞれ 64.0 百万トン（前年度比 5.9%減）、27.5 百万トン(同 14.6%増)の見込み。春小麦の単収は、生育期の乾燥天候の影響や収穫期の降雨の影響を受けず史上最高となった。

ロシア気象センターによれば、2024 /25 年度の冬穀物の生育状況は、2024 年 3 月時点でロシアヨーロッパ部北部・中部では、気温が大部分の地域で平年より高く、気温の上昇で雪溶け地域が広がり、再生長期に入っている地域があるものの、スノーカバーに覆われ再成長が始まっていない地域も残っている。なお、一部地域では根腐れの懸念がある。ヨーロッパ部南部では、気温は概ね平年並みで、一部地域では平年より高く、生長が進んでおり、作柄は概ね良好である。ロシアアジア部では、気温が平年より高く、作柄は概ね平年並みである。

ロシア農業省によれば、4 月 12 日現在の春小麦の作付面積は 27.3 万ヘクタールであり、作付予定面積に対し進捗率 2 %、前年同期に比べ 5.5 万ヘクタール減となっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、4 月 8 日時点の輸出価格（FOB）は、競争力のある価格を背景に旺盛な需要となり 12 ドル/トン上昇し、211 ドル/トンとなったものの、主要輸出 6 か国(ロシアのほか、米国、カナダ、豪州、EU、アルゼンチン)中で最も価格競争力がある。

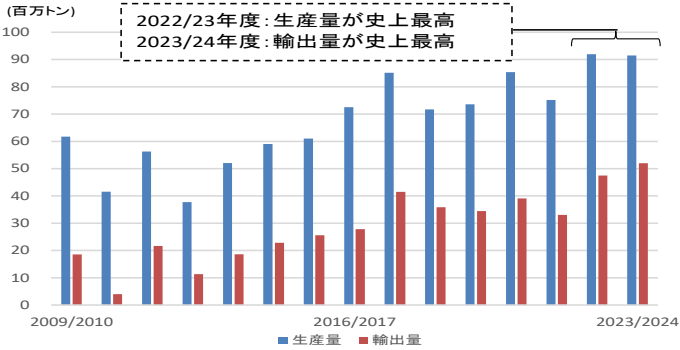
2023/24 年度の輸出量は、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、52.0 百万トンとなる見込み。輸出余力が潤沢で好調な輸出ペースを受け史上最高であった前年度(47.5 百万トン)を更に 9.5%上回る見込み。

現地情報会社等によれば、2023/24 年度のうち 2023 年 7 月から 2024 年 3 月までの輸出量は、3,936.0 万トンと、過去最高であった 2022/23 年度の同期間(3,585.3 万トン)を 9.8%上回った。また、3 月の輸出量は 434.6 万トンと、過去 3 年平均(260.8 万トン)を 66.6%上回った。同月の輸出先国は、エジプト(27.0%)、トルコ(8.3%)、カザフスタン(6.5%)の順。なお、デュラム小麦は欧州への輸出量増加で国内価格が上昇したため、2023 年 12 月～本年 5 月まで禁輸措置を導入。

小麦－ロシア（主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培）

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23 年 7 月～24 年 6 月)			
			予測値、() は IGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	75.2	92.0	91.5	(90.4)	-	▲ 0.5
消 費 量	41.8	42.3	42.0	(43.4)	▲ 1.0	▲ 0.6
うち飼料用	18.5	19.0	19.0	(18.9)	▲ 1.0	-
輸 出 量	33.0	47.5	52.0	(48.1)	1.0	9.5
輸 入 量	0.3	0.3	0.3	(0.1)	-	-
期末在庫量	12.1	14.6	12.4	(10.4)	-	▲ 15.0
期末在庫率	16.2%	16.3%	13.2%	(11.3%)	-	▲ 3.1
(参考)						
収穫面積(百万ha)	27.63	29.00	28.83	(29.00)	-	▲ 0.6
単収(t/ha)	2.72	3.17	3.17	(3.14)	-	-
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(11 April 2024)、 IGC 「Grain Market Report」(14 March 2024)						

図 ロシアの小麦生産量と輸出量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024.4.11)

表 ロシア産小麦の輸出量と輸出先国

2023/24 年度 (2024 年 3 月)			2023/24 年度 (2023 年 7 月～2024 年 3 月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
エジプト	117.3	27.0	エジプト	605.2	15.4
トルコ	36.2	8.3	トルコ	518.7	13.2
カザフスタン	28.4	6.5	バングラデシュ	285.6	7.3
リビア	25.3	5.8	カザフスタン	223.2	5.7
サウジアラビア	23.8	5.5	パキスタン	202.0	5.1
バングラデシュ	22.4	5.2	アルジェリア	178.5	4.5
メキシコ	14.6	3.4	インドネシア	143.7	3.7
その他	166.6	38.3	その他	1,779.1	45.2
計	434.6	100.0	計	3,936.0	100.0

資料：現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

＜ウクライナ＞ 2023/24 年度の輸出量は前月予測から 1.5 百万トン上方修正

【生育・生産状況】USDAによれば、2023/24年度の生産量(クリミア地域分を含む)は、前月予測からの変更はなく23.4百万トンの見込み。収穫面積は前年度に比べ減少も、良好な天候による単収の上昇を受け、前年度(21.5百万トン)を8.8%上回っている。ただし、ロシアのウクライナ侵攻前の2021/22年度(33.0百万トン)と比べると29.1%下回る。

ウクライナ農業政策食料省によれば、2024/25年度の冬小麦の作付面積は4.3百万ヘクタールと、前年度から0.3百万ヘクタール減少する見込み。2024年3月は、国内全体で非常に温暖な天候となっており、3月上旬は国内全体でほとんど降雨がなかったが、中旬から下旬では大部分の地域で平年を上回る降雨となっている。この温暖な天候と十分な降水量を受け、3月末時点での冬小麦の生育段階は、分げつ期から三葉形成期を迎えており、作柄は概ね良好及び並となっている。

2024/25年度の春小麦の作付面積は0.2百万ヘクタールと、前年度から僅かに増加する見込み。4月11日現在の春小麦の作付進捗率は70.7%（前年同期74.8%）となっている。

【貿易状況・その他】USDAによれば、2023/24年度の輸出量は、臨時回廊からの輸出が好調に推移していることから、前月予測から1.5百万トン上方修正され17.5百万トンと、前年度に比べ2.2%増加するものの、5年平均(18.0百万トン)では2.6%減少の見込み。黒海のオデーサ港等の主要輸出港からのアフリカ及びアジア向け輸出が黒海穀物イニシアティブの履行停止の影響を受け輸出量が減少していたが、2023年8月の臨時回廊の設置で輸出量は増加している。

ウクライナ政府等によれば、2023/24年度のうち2023年7月から2024年3月までの輸出量は、1,365.9万トン(ロシアのウクライナ侵攻前の2020/21年度同時期の5.2%減)。この間、黒海穀物イニシアティブの履行停止に伴い7月の輸出量は84.1万トンに減少したものの、2023年8月の臨時回廊の設置を受け、輸出量は増加傾向となり2024年3月の輸出量は200.1万トンとなっている。同月の輸出先国は、スペイン(23.9%)、エジプト(10.7%)、バングラデシュ(8.4%)の順。また、同月の輸送手段別的小麦輸出量は、船舶94.3%、鉄道4.6%、自動車0.5%と大部分が船舶輸送となっている。小麦の安定的な供給の維持には臨時回廊が支障なく機能し続けることが条件となっている。

小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）

(単位:百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24(23年7月～24年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	33.0	21.5	23.4 (24.5)	-	8.8
消 費 量	9.5	7.8	7.3 (12.3)	▲ 0.4	▲ 6.4
うち飼料用	3.5	3.0	2.5 (2.4)	▲ 0.2	▲ 16.7
輸 出 量	18.8	17.1	17.5 (12.5)	1.5	2.2
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	33.3
期末在庫量	6.3	2.9	1.6 (1.6)	▲ 1.7	▲ 45.5
期末在庫率	22.1%	11.6%	6.4% (6.3%)	▲ 7.5	▲ 5.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.41	5.60	5.05 (6.32)	-	▲ 9.8
単収(t/ha)	4.45	3.84	4.63 (4.54)	-	20.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(史上最大の穀物生産量→ 33.0
IGC 「Grain Market Report」(14 March 2024)

図 ウクライナ産小麦の生産量、輸出量等の推移

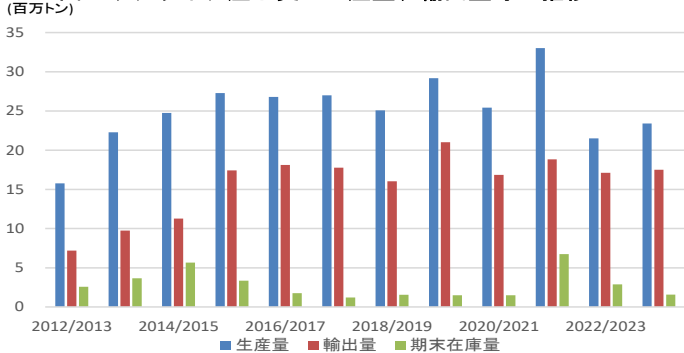


表 ウクライナ産小麦の輸出量の推移

(単位:千トン)

	小麦輸出量	輸送手段別			
		港湾	鉄道	自動車	フェリー他
2023年 7月	841	678	123	33	8
8月	1,224	972	159	50	44
9月	1,273	964	235	43	31
10月	1,341	1,065	232	24	21
11月	1,131	956	160	11	4
12月	1,844	1,730	85	7	22
2024年 1月	1,504	1,376	101	20	7
2月	2,499	2,383	95	16	6
3月	2,001	1,887	92	10	13
計	13,659	12,009	1,282	213	156

資料：現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2023/24 年度

生産量 前年度比  前月比 

・EU 等で上方修正されたものの、南アフリカ、アルゼンチン、メキシコ等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

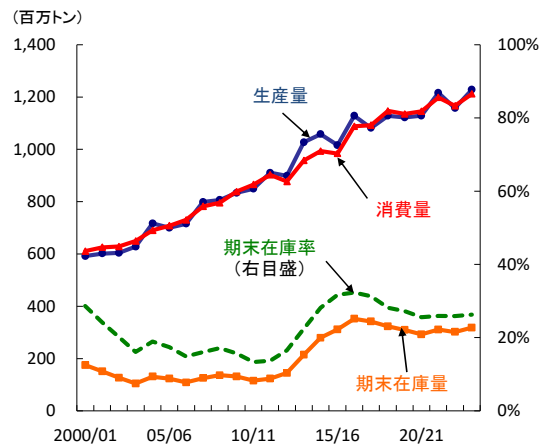
消費量 前年度比  前月比 

・米国、インド等で上方修正されたものの、アルゼンチン等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比  前月比 

・ロシアで上方修正されたものの、南アフリカ、インド等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比  前月比 



資料：USDA「PS&D」(2024.4.11)をもとに農林水産省にて作成

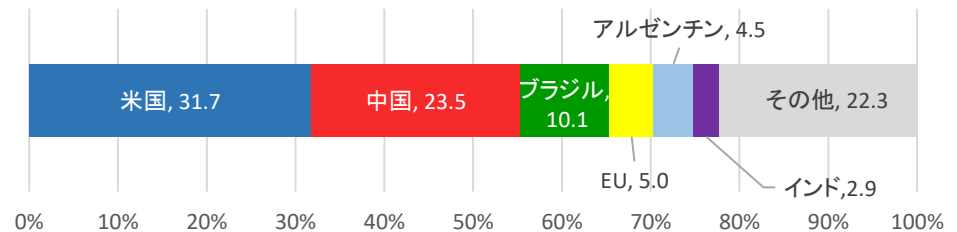
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

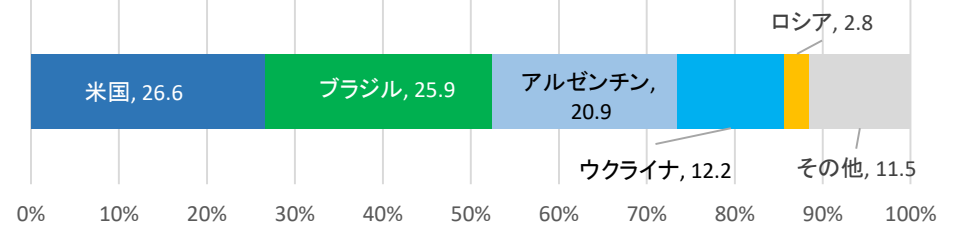
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,216.1	1,157.7	1,227.9	▲ 2.4	6.1
消費量	1,198.3	1,166.3	1,211.8	▲ 0.5	3.9
うち飼料用	743.3	729.6	759.0	▲ 2.7	4.0
輸出量	206.4	180.2	200.6	▲ 1.7	11.3
輸入量	184.4	172.8	187.5	▲ 2.0	8.5
期末在庫量	310.8	302.2	318.3	▲ 1.4	5.3
期末在庫率	25.9%	25.9%	26.3%	▲ 0.1	0.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 April 2024)

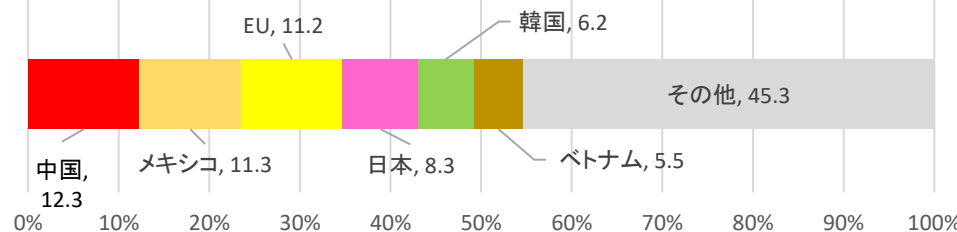
○ 2023/24 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,227.9 百万トン) (単位：%)



○ 2023/24 年度 世界のとうもろこしの輸出量(200.6 百万トン) (単位：%)



○ 2023/24 年度 世界のとうもろこしの輸入量(187.5 百万トン) (単位：%)



（２）国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 > 2024/25 年度の作付意向面積は、前年度より 4.9%減

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加（対前年度比 9.9%増）や単収の増加（同 2.2%増で史上最高）を受け、前年度より 12.4%増の 389.7 百万トンと史上最高の見通し。収穫面積の増加については、肥料価格の高騰が前年度から落ち着いたことを受けて、とうもろこしを選択した農家が増加したことも要因とみられる。

USDA「Prospective Plantings」（2024.3.28）によれば、これから作付けされる 2024/25 年度の作付意向面積は、36.4 百万ヘクタールと、前年度より 4.9%減の見込み。現在の価格相場は大豆の作付けに有利であるため、多くの農家がとうもろこしから大豆の作付けに切り替えるとみられる。

USDA「Crop Progress」（2024.4.15）によれば、とうもろこしの作付進捗率は 6 %と、前年度同期（7 %）を下回り、過去 5 年平均（5 %）を上回っている。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」（2024.4.16）によれば、4 月上旬、中西部の一部地域で降雨過多により作付作業が遅れたものの、作物の発芽に必要な水分量が確保された。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、直近の飼料用及びエタノール用等消費量が予想を上回ったことなどを受け前月予測から 1.3 百万トン上方修正され、飼料用、エタノール用等の需要の増加により、前年度に比べ 3.8%増の 317.6 百万トンの見通し。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、国際的なとうもろこし価格の低下に伴う需要増加を受けた輸出の回復期待から、前年度より 26.4%増の 53.3 百万トンの見込み。他方で、2023/24 年度に輸入が増加すると見込まれる中国への輸出をめぐり、前年度が史上最高の生産見通しとなったブラジル産等との輸出競争が激化する見通し。

なお、2024 年 3 月の輸出量は 588.5 万トンと、前年同月の 498.4 万トンより 18.1%増加。干ばつにより減産したメキシコ向けの輸出量が前年同月比で 27.8%増加した。

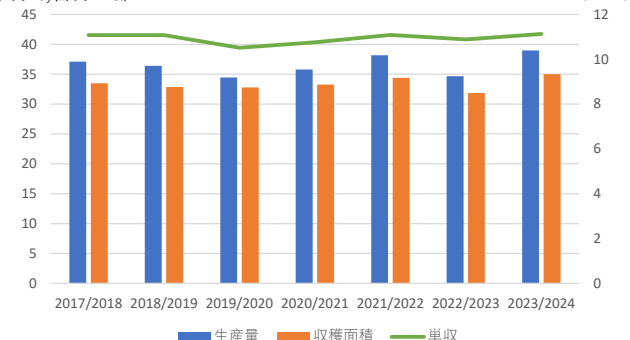
USDA によれば、2023/24 年度の期末在庫量は、消費量の増加を受けて前月予測から 1.3 百万トン下方修正されたものの、増産を受けて前年度より 56.0%増の 53.9 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より 4.6 ポイント上昇し 14.5%と、過去 3 年平均（9.2%）を上回っている。

とうもろこしー米国

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年9月～24年8月)		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	381.5	346.7	389.7	-	12.4
消 費 量	315.7	306.0	317.6	1.3	3.8
うち飼料用	144.0	139.4	144.8	0.6	3.9
エタノール用等	135.1	131.5	137.2	0.6	4.3
輸 出 量	62.8	42.2	53.3	-	26.4
輸 入 量	0.6	1.0	0.6	-	▲ 34.7
期末在庫量	35.0	34.6	53.9	▲ 1.3	56.0
期末在庫率	9.2%	9.9%	14.5%	▲ 0.4	4.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	34.39	31.85	35.01	-	9.9
単収(t/ha)	11.09	10.89	11.13	-	2.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 April 2024)

図 米国産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移
(千万 t, 百万 ha) (t/ha)



資料：USDA「PS&D」（2024.4.11）をもとに農林水産省にて作成。

表 米国産とうもろこしの輸出量と輸出先国 (輸出量：万トン、シェア：%)

2024年3月			2022/23年 (2022年9月～2023年8月)			2021/22年 (2021年9月～2022年8月)		
国	輸出量	シェア	国	輸出量	シェア	国	輸出量	シェア
メキシコ	212.2	36.1	メキシコ	1342.1	36.1	中国	3123.0	59.8
日本	116.6	19.8	中国	749.5	20.2	メキシコ	455.8	8.7
コロンビア	71.4	12.1	日本	676.6	18.2	ドイツ	321.6	6.2
韓国	57.5	9.8	コロンビア	228.8	6.2	日本	208.7	4.0
その他	130.8	22.2	その他	718.1	19.3	その他	1393.1	21.3
計	588.5	100	計	3715.1	100	計	5502.2	100

資料：USDA「Federal Grain Inspection Service Yearly Export Grain Totals」をもとに農林水産省にて作成。

＜ ブラジル ＞ 2023/24 年度の生産量は高温乾燥により減少

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の豊作となった前年度より 9.5%減の 124.0 百万トンの見込み。

ブラジル食料供給公社（CONAB）の月例報告（2024.4.11）によれば、2023/24 年度のとうもろこしの生産量は、前年度比 15.9%減の 111.0 百万トンの見込み（P.23 大豆－ブラジルのクロップカレンダー参照）。夏とうもろこしは、エルニーニョ現象による南部での作付期の降雨過多の影響等により、前年度比 14.7%減の 23.4 百万トンの見込み。冬とうもろこしも、中西部での高温乾燥の影響を受け、前月から 1.7 百万トン下方修正され、前年度比 16.2%減の 87.6 百万トンの見込み。

USDA によれば、夏とうもろこしが主に栽培されている南部では、4 月上旬、生育に適した降雨と夏の温暖な気候からとうもろこしの成熟が急速に進んだ。南部のリオ・グランデ・ド・スール州における夏とうもろこしの収穫進捗率は 4 月 11 日時点で 77%と、前年度同期（80%）より遅れている。

一方、冬とうもろこしについては、4 月上旬現在、生育に適した降雨があった。冬とうもろこしの最大生産州である中西部のマット・グロッソ州等では、順調に生育している。一方、南部のパラナ州等の一部地域では、3 月の降雨不足により作柄の悪化が懸念されている。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用及び加工用ともに需要増加等から、前年度より 2.6%増の 78.5 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、史上最高となった前年度より 4.2%減の 52.0 百万トンとなり、米国に次ぐ世界第 2 位の輸出国に後退する見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年 1～3 月の輸出量は 7.0 百万トンで、前年度同期比 28%減。内訳は、中国（1.5 百万トン）、イラン（0.9 百万トン）、エジプト（0.7 百万トン）の順。2024 年 3 月のとうもろこし輸出量は季節的に減少しており、大豆の輸出が一巡し、輸送や港湾の輸出キャパシティに余裕が出てくる本年後半以降、冬とうもろこしの収穫を受け本格化するとみられる。

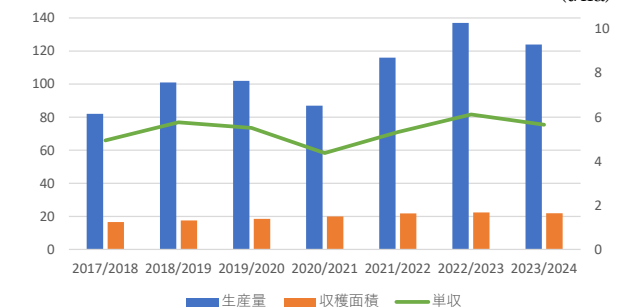
とうもろこし－ブラジル

（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが約 8 割、夏とうもろこしは約 2 割）

(単位：百万トン)					
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (24年3月～25年2月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	116.0	137.0	124.0 (121.5)	-	▲ 9.5
消 費 量	70.5	76.5	78.5 (82.7)	-	2.6
うち飼料用	59.5	63.5	64.5 (57.0)	-	1.6
輸 出 量	48.3	54.3	52.0 (40.9)	-	▲ 4.2
輸 入 量	2.6	1.3	1.2 (2.0)	-	▲ 9.8
期末在庫量	4.0	11.5	6.2 (5.7)	0.1	▲ 45.9
期末在庫率	3.3%	8.8%	4.8% (4.6%)	0.1	▲ 4.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	21.80	22.40	21.90 (20.60)	-	▲ 2.2
単収(t/ha)	5.32	6.12	5.66 (5.90)	-	▲ 7.5

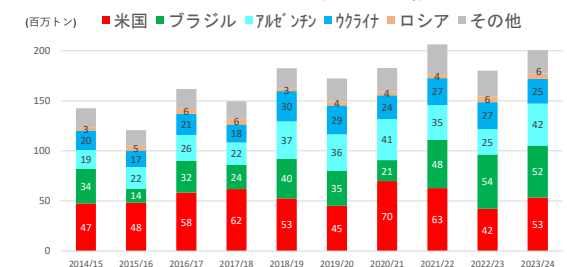
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 April 2024)
IGC「Grain Market Report」(14 March 2024)

図 ブラジル産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移
(百万 t, 百万 ha) (t/ha)



資料：USDA「PS&D」（2024.4.11）をもとに農林水産省にて作成。

図 世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移
(ブラジルは減産により世界第 2 位の輸出国に後退)



資料：USDA「PS&D」（2024.4.11）をもとに農林水産省にて作成。

＜ アルゼンチン ＞ 2023/24 年度の生産量は、前年度から回復する見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、単収の引下げを受けて前月予測から 1.0 百万トン下方修正されたものの、高温・乾燥により生産量が激減した前年度に比べ降雨に恵まれ単収が増加することを受けて、大きく回復する見通しから、52.8%増の 55.0 百万トンで史上最高となる見込み。

アルゼンチン政府によれば、4 月 11 日時点でとうもろこしの収穫進捗率は 19%と、前年度同期 (18%) より進んでいる。

ブエノスアイレス取引所週報 (2024.4.11) によれば、主産地の中部で収穫が順調に進められている一方、病害虫のヨコバイによる被害が発生している。

USDA によれば、4 月上旬、温かい天候で降雨に恵まれ、生育に好影響となった。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、飼料用需要の引下げを受けて前月予測から 1.0 百万トン下方修正されたものの、増産に伴い需給が緩和し、飼料用需要が回復することから、前年度より 14.9%増の 13.1 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、高温・乾燥により減産した前年度から生産量が大きく回復し、供給余力が出てきていることに加え、ペソ安により輸出競争力が高まる見通しから、前年度より 66.4%増の 42.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2024 年 1・2 月の輸出量は 3.9 万トンで、2022/23 年度産の減産から回復したことを受け、前年度同期 (2.5 万トン) 比で 56%増となった。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げ、継続している。また、国内向け穀物供給不足の回避と食料品価格の上昇を抑制するため、輸出上限数量を設定しており、2022/23 年度のとうもろこし輸出上限数量は 26 百万トン。

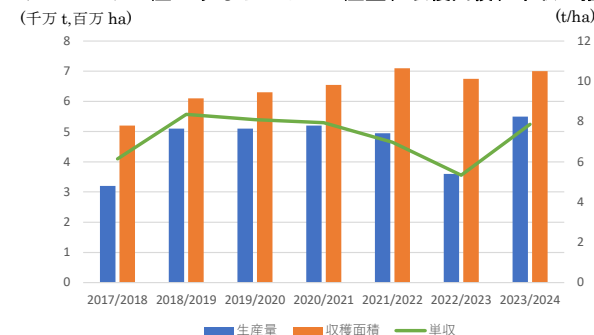
前年 12 月 10 日、新大統領に右派のミレイ氏が就任した。同 12 日、カブート経済相は通貨ペソの公式レートを引下げ、1 ドル=800 ペソとした。なお、「OIL WORLD Weekly」(2024.2.2) によれば、政府は、とうもろこしの輸出税を 12%から 15%に引き上げることを検討していたものの、農業団体等の強い抵抗を受けて断念し、当面の間 12%のまま維持される見通し。

とうもろこしーアルゼンチン

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (24年3月～25年2月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	49.5	36.0	55.0 (60.0)	▲ 1.0	52.8
消費量	14.2	11.4	13.1 (21.3)	▲ 1.0	14.9
うち飼料用	10.1	7.2	8.8 (16.0)	▲ 1.0	22.2
輸 出 量	34.7	25.2	42.0 (39.0)	-	66.4
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	0.01	-
期末在庫量	1.8	1.2	1.1 (3.4)	0.02	▲ 6.8
期末在庫率	3.7%	3.2%	2.0% (5.7%)	0.04	▲ 1.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.10	6.75	7.00 (8.20)	-	3.7
単収(t/ha)	6.97	5.33	7.86 (7.44)	▲ 0.14	47.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 April 2024)
IGC 「Grain Market Report」(14 March 2024)

図 アルゼンチン産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024.4.11) をもとに農林水産省にて作成。

写真：北部サンタフェ州の遅植えとうもろこしの圃場風景 (2024 年 3 月 30 日撮影)



本圃場のとうもろこしの生育ステージは開花期～乳熟期にある。
収穫作業は、現在の生育状況から 6～7 月に見込まれる。
予想単収は 10 トン/ヘクタールを上回る見込み。

< 中国 > 単収及び収穫面積の増加を受け、生産量は史上最高

【生育・生産状況】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、中国国家统计局による収穫面積及び単収の増加見込みを受けて、前年度より4.2%増の288.8百万トンとなり、史上最高となる見込み。

4月上旬、四川省では作付期を迎えている。主産地の黒竜江省で今後作付けが開始される見通し。

【需要状況】USDAによれば、2023/24年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、とうもろこし国際価格の低下等から、前年度より2.3%増の306.0百万トンと史上最高の見込み。背景には国内の堅調な食肉需要があり、中国国家统计局（2024.1.17）によれば、2023年の食肉生産量は9,641万トンと、前年比で4.5%増。ただし、業界情報によれば、直近では中国の経済成長が鈍化し、豚肉の価格が低迷する中、中国政府は3月から国内の養豚飼育数の生産目標を減らす供給過剰対策を開始しており、飼料用需要減少につながるとの見方もある。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内の飼料用需要の増加を背景として、国際価格が国内価格を下回っているほか、特に2022年末から開始されたブラジルからの輸入が増加すると予想されていることもあり、前年度より22.9%増の23.0百万トンの見込み。

農業農村部によれば、2024年1・2月の輸入量は、前年度同期より16.2%増の619.2万トン。内訳は、ブラジル（410.3万トン）、ウクライナ（114.1万トン）、米国（76.7万トン）の順。2022年11月以降開始されたブラジル産とうもろこしの輸入が、2022/23年度のブラジル産の豊作による安価な輸出価格を受けて大幅に増加し、第1位の輸入先国となった。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024年2月号」によると、2月の国内価格は、春節等の休日重なったため売買活動が不活発となったことにより、2,480 元/トンと前月（2,500 元/トン）から小幅に下落した。

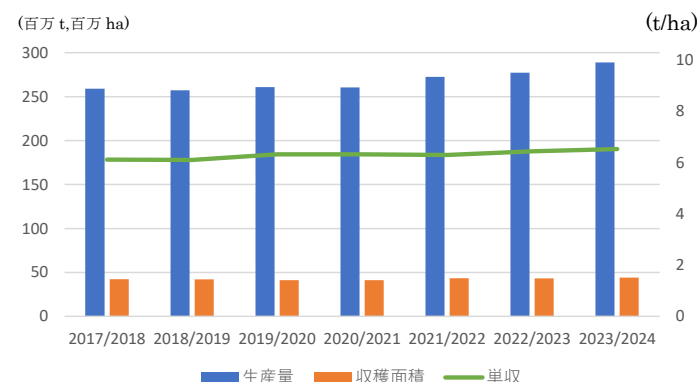
USDAによれば、2023/24年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、国内産の増産と輸入の増加により前年度より2.8%増の211.9百万トンの見込み。

とうもろこし—中国

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)			
			2023/24 (見込み)		2023/24 (見込み)	
			予測値、() はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)	
生産量	272.6	277.2	288.8 (291.0)	-	4.2	
消費量	291.0	299.0	306.0 (315.5)	-	2.3	
うち飼料用	209.0	218.0	225.0 (213.0)	-	3.2	
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-	
輸 入 量	21.9	18.7	23.0 (23.0)	-	22.9	
期末在庫量	209.1	206.0	211.9 (178.3)	-	2.8	
期末在庫率	71.9%	68.9%	69.2% (56.5%)	-	0.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	43.32	43.07	44.22 (44.20)	-	2.7	
単収(t/ha)	6.29	6.44	6.53 (6.58)	-	1.4	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 April 2024)、
IGC「Grain Market Report」(14 March 2024)

図 中国産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA「PS&D」(2024.4.11)をもとに農林水産省にて作成。

表 中国産とうもろこしの輸入量と輸入元国

2024年1・2月			2023年1月～2023年12月			2022年1月～2022年12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	410.3	66.3	ブラジル	1,280.6	47.2	米国	1,486.5	72.1
ウクライナ	114.1	18.4	米国	714.4	26.3	ウクライナ	526.4	25.5
米国	76.7	12.4	ウクライナ	551.8	20.3	ミャンマー	19.4	0.9
南アフリカ	5.6	0.9	ブルガリア	73.9	2.7	ブルガリア	14.7	0.7
ロシア	5.5	0.9	ミャンマー	38.1	1.4	ロシア	9.5	0.5
ブルガリア	4.6	0.7	ロシア	29.4	1.1	ラオス	5.1	0.2
その他	2.4	0.4	その他	24.5	0.9	その他	0.2	0.0
計	619.2	100	計	2,712.7	100	計	2,061.8	100

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成。

＜ ウクライナ ＞ 2023/24 年度の生産量は、侵攻前の 2021/22 年度より 29.9%減

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より収穫面積が減少（前年度比 6.2%減）も、天候に恵まれ単収が上昇（前年度比 16.3%増）したことを受け、前年度より 9.3%増となった。ただ、侵攻前の史上最高の豊作だった 2021/22 年度比では 29.9%減の 29.5 百万トンとなる見通し。

2023/24 年産の収穫は終了したとみられる。ウクライナ農業政策食料省によれば、4 月 11 日現在、2024/25 年産の作付けが開始されており、作付進捗率は 3 %と、前年度同期（1 %）より進んでいる。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、増産による供給増を受けて前年度より 2.0%増の 5.0 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、2023/24 年度の期首在庫の減少、黒海穀物イニシアティブの停止、主要輸出先である EU での増産による輸入需要の減少の影響を受け、前年度より 9.7%減、侵攻前の 2021/22 年度からも 9.3%減の 24.5 百万トンの見込み。オデーサ港から陸路を経由せず直接臨時回廊を経由するルートによる輸出も増加しつつあり、中国を始めとする世界各国への輸出が可能となっている。なお、4 月 5 日現在のウクライナ産の輸出価格は 177 ドル/トンと、米国産（193 ドル/トン）、ブラジル産（199 ドル/トン）を大きく下回っているものの、紅海情勢の悪化から海上保険料が上昇している点に留意する必要がある。

ウクライナ政府等によれば、2023 年 10 月～2024 年 3 月の輸出量は 1,571.5 万トン（海上輸送、陸路等による全ての輸出が含まれる）と、臨時回廊により輸出量が増加（2023 年 7～9 月平均と比較し、月平均で 201.8%増）したものの、黒海穀物イニシアティブが履行されていた前年度同期比では 8.5%減。輸出先国は、スペイン（408.5 万トン）、中国（255.6 万トン）、エジプト（195.6 万トン）、イタリア（131.0 万トン）の順。2023/24 年度に干ばつとなったスペイン向けが最大となっている。

USDA によれば、2023/24 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、増産による供給増から前年度より 0.7%増の 2.8 百万トンの見込み。ただし、輸出量がウクライナ侵攻前に比べ低水準に留まるため、侵攻前の 5 か年平均より 12%増。2023/24 年度の期末在庫率は、前年度から 0.8 ポイント増の 9.6%となる見込み。

とうもろこしーウクライナ

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)			
			予測値、() は IGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)	
生産量	42.1	27.0	29.5 (27.7)	-	9.3	
消費量	8.2	4.9	5.0 (6.3)	-	2.0	
うち飼料用	7.2	4.0	4.0 (4.5)	-	-	
輸出量	27.0	27.1	24.5 (21.5)	-	▲ 9.7	
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	7.8	2.8	2.8 (5.0)	-	0.7	
期末在庫率	22.2%	8.7%	9.6% (18.0%)	-	0.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	5.49	4.05	3.80 (4.06)	-	▲ 6.2	
単収(t/ha)	7.68	6.67	7.76 (6.83)	-	16.3	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 April 2024)
IGC「Grain Market Report」(14 March 2024)

図 とうもろこしの生産量、輸出量、期末在庫量の推移
(2023/24 年度の輸出量は、2017/18 年度以来の低水準の見通し)

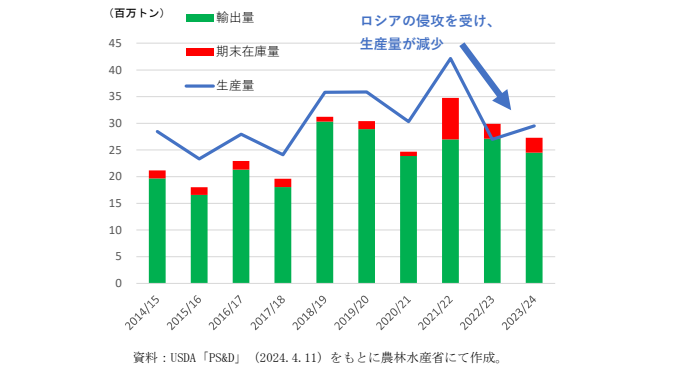


表 ウクライナ産とうもろこしの主な輸出相手国
(単位：千t)

	2024年3月		2023年10月～2024年3月	
	国名	輸出量	国名	輸出量
1	トルコ	630	スペイン	4,085
2	中国	615	中国	2,556
3	スペイン	340	エジプト	1,956
4	エジプト	268	イタリア	1,310
5	イタリア	170	オランダ	1,265
6	イスラエル	157	トルコ	1,037

資料：ウクライナ国家統計局のデータを基に農林水産省にて作成。

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2023/24 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・インドネシア等で下方修正されたものの、フィリピン等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

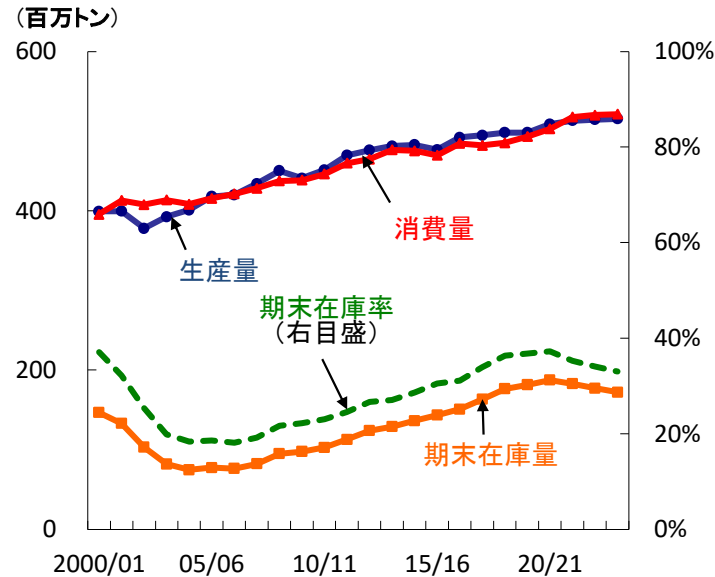
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・タイ等で上方修正されたものの、中国や米国等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・中国等で下方修正されたものの、ベトナム等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2024. 4. 11）をもとに農林水産省にて作成

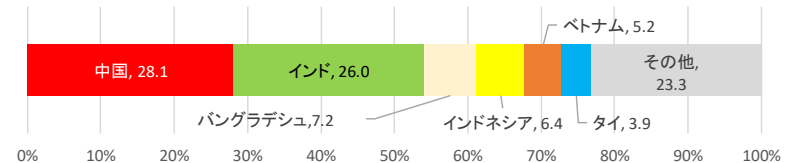
◎世界のコメ需給

（単位：百万精米トン）

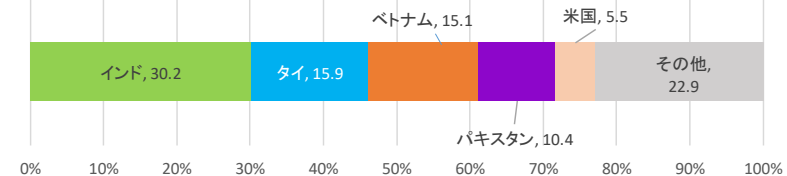
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	513.1	514.4	515.5	0.1	0.2
消 費 量	517.6	519.6	521.4	▲ 1.5	0.3
輸 出 量	56.9	54.1	52.9	0.4	▲ 2.1
輸 入 量	54.5	55.7	50.3	0.2	▲ 9.6
期末在庫量	183.2	178.0	172.2	2.5	▲ 3.3
期末在庫率	35.4%	34.2%	33.0%	0.6	▲ 1.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（11 April, 2024）

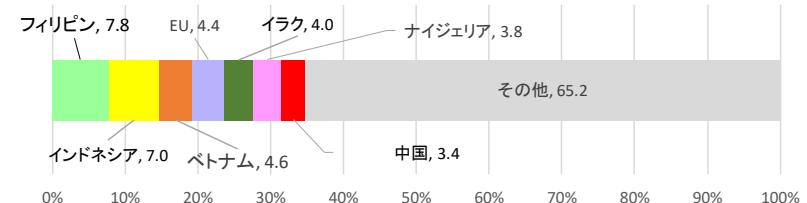
○ 2023/24年度 世界のコメの生産量(515.5百万トン)（単位：％）



○ 2023/24年度 世界のコメの輸出量(52.9百万トン)（単位：％）



○ 2023/24年度 世界のコメの輸入量(50.3百万トン)（単位：％）



(2) 国別のコメの需給動向

< 米国 > 2024/25 年度の作付面積はわずかに増加の見込み

【生育・生産動向】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度比 36.4%増の 6.9 百万トンの見込み。特に 2 年連続の干ばつに見舞われ生産量が激減していた中・短粒種の生産量が 2.0 百万トンと、前年度 (1.0 百万トン) から 104.0%増で大きく回復することが要因。長粒種の生産量は 4.9 百万トンと、前年度 (4.1 百万トン) から 19.8%増加。

同「Prospective Plantings」(2024.3.28)によれば、2024/25 年度の作付意向面積は 118.7 万ヘクタールと、前年度 (117.1 万ヘクタール)からわずかに増加の見込み。このうち、長粒種の作付面積は、インドの輸出規制等を受けた高水準の価格の継続等から 93.1 万ヘクタールと、前年度(83.5 万ヘクタール)から 11.5%増加の見込み。これに対し、中・短粒種の面積は、2023/24 年度の輸出の鈍化等から 25.6 万ヘクタールと、前年度(33.6 万ヘクタール)から 24.0%減少の見込み。

同「Crop Progress」(2024.4.15)によれば、主要生産 6 州の 4 月 14 日時点の作付進捗率は 44%と、前年同期 (33%)、過去 5 年平均 (26%) よりも進展している。なお、カリフォルニア州ではまだ作付けが開始されていない。発芽率は 18%と、前年同期 (17%)、過去 5 年平均 (14%) より高い。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、2023 年 12 月~2024 年 2 月の長粒種の消費量 (推計) 及び 2024 年 3~7 月の消費減少予測に基づき、前月予測から 0.2 百万トン下方修正されたものの、増産による供給量増加の見込みから、前年度比 8.2%増の 5.0 百万トンと史上最高の見込み。

2023/24 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、本年 7 月まで、タイ等アジア諸国から香米の輸入が当初予想以上の水準での輸入見込みから、前年度比 7.9%増の 1.4 百万トンと史上最高となる見込み。

2023/24 年度の輸出量は、本年 2 月以降のメキシコ等中南米諸国からの長粒種の需要増大及びその継続見込みを受け、前月予測より 0.1 百万トン上方修正された。国内生産量の増加と、昨年秋からの南米のタイトな供給から、前年度比 41.7%増の 2.9 百万トンの見込み。ただし今月から南米からの輸出が見込まれ、米国産と競合する見込み。2023/24 年度(2023 年 8 月 1 日~2024 年 4 月 4 日)の主な輸出先国はメキシコ (73.1 万トン)、ハイチ (28.7 万トン)、日本 (28.6 万トン)、の順。

USDA 「Rice Outlook」(2024.4.15)によれば、4 月 9 日までの週のイラク向け長粒種 (2 等、砕米 4 %混入) の価格は 800 と、中南米諸国からの需要増大を受け先月から高止まりしている (P.20 の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照)。地中海向けカリフォルニア米 (1 等、砕米 4 %混入) である中粒種の 4 月 9 日までの週の価格は、生産量の増加見込みを受け 835 ドル/トンと、2023 年 9 月初旬の史上最高値 (1,650 ドル/トン) から 815 ドル/トン下落し、本年 2 月以降、2021 年 5 月以来の安値となっている。

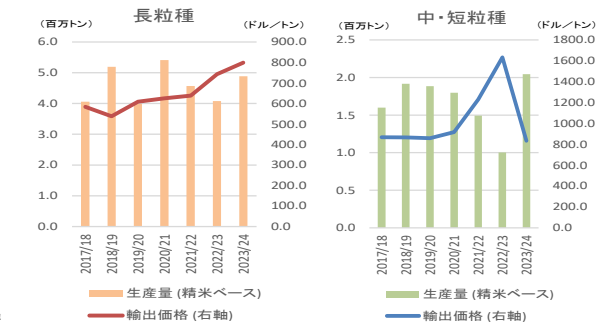
コメー米国

主に長粒種はミシシッピ川沿いで栽培、中・短粒種のシェアは 1/4
米国のコメ生産に占めるカリフォルニア州のシェアは約 2 割

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年8月~24年7月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	6.1	5.1	6.9	-	36.4
消 費 量	4.7	4.6	5.0	▲ 0.2	8.2
輸 出 量	2.7	2.0	2.9	0.1	41.7
輸 入 量	1.2	1.3	1.4	-	7.9
期末在庫量	1.3	1.0	1.4	0.1	43.8
期末在庫率	17.1%	14.4%	17.5%	0.9	3.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.00	0.88	1.16	-	31.8
単収(もみt/ha)	8.64	8.28	8.57	-	3.5

資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 April, 2024)

図:米国の長粒種と中・短粒種の生産量・輸出価格の推移



資料:USDA 「Rice Outlook」
(2024.4.15) より。価
格は年度内の平均価
格。なお、2023/24 年度
は 2024 年 4 月の価格。

< インド > ラビ米の収穫が開始

【生育・生産動向】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、134.0百万トンと、前年度比で1.3%減も、過去5年平均比で7.2%増の見込み。単収は4.19もみトン／ヘクタールと、前年度比1.6%減となったものの、作付面積が48.00百万ヘクタールと、前年度より0.4%増加したことが要因。

農産物市場情報システム（2024.4）によると、3月28日現在、播種期及び生育期に水不足に見舞われた南部の州を除き、ラビ米の収穫が概ね良好な状況の中で始まっている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、政府が前年11月初旬に、2024年1月以降の穀物配給計画を5年間（2028年まで）延長したことで、人口増加に伴い配給対象者も増加する見込みから、前年度比3.0%増の118.0百万トンの見込み。政府の配給プログラムは8.13億人が対象となっており、コメ等が低所得世帯向けに無償又は低価格で配給される見込み。2023/24年度の調達量は、53～54百万トンと、政府の設定水準（42～44百万トン）を大きく上回る見込み（インド全体の消費量の半分に相当）。

2023/24年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、輸出規制強化による直近の輸出量減少を受け、前年度比21.0%減の16.0百万トンの見込み。ただ依然として世界第1位の輸出シェアを維持しており、世界全体のコメ輸出総量の約30%を占める。前年10月から2024年1月までの主な輸出先国は、イラク（36.9万トン）、サウジアラビア（26.9万トン）、ベナン（23.3万トン）、ソマリア（20.1万トン）の順。イラク、サウジアラビア向けはバスマティ米の輸出が主流となっている。

なお、インドは、非バスマティ米を中心に、2022年9月9日以降、様々な輸出規制を発動・強化している。本年2月21日には、インド財務省が、本年3月31日までの予定だったパーボイルド米の20%の輸出関税を無期限に延長した。詳細は右表を参照のこと。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2024.3.8）によれば、インド産米（碎米5%混入）の価格は、輸出規制強化後のデータが提示されていない。なお、規制前の前年7月時点の輸出価格は485ドル/トンと、アジア主要輸出国の中で最低水準の価格となっていた（P.20の「長粒種のFOB価格の推移」を参照）。

2023/24年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度と同水準の35.0百万トンの見込み。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ（小麦）の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位：百万精米トン)						
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	129.5	135.8	134.0 (129.3)	-	▲ 1.3	
消 費 量	110.5	114.5	118.0 (113.7)	-	3.0	
輸 出 量	22.0	20.3	16.0 (13.7)	-	▲ 21.0	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	34.0	35.0	35.0 (35.7)	-	-	
期末在庫率	25.7%	26.0%	26.1% (28.0%)	-	0.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	46.28	47.83	48.00 (47.83)	-	0.4	
単収(もみt/ha)	4.20	4.26	4.19 (2.84)	-	▲ 1.6	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 April, 2024)
IGC「Grain Market Report」(14 March, 2024) (単収は精米t/ha)

表：インドのコメ輸出規制(2022年9月9日～)

対象品目	措置内容	発動日
全ての種類のコメの粳 (HS 1006 10)	輸出税 (20%)	2022.9.9～
全ての種類のコメの玄米 (HS 1006 20)	輸出税 (20%)	2022.9.9～
バスマティ米・精米 (HS1006 30 20)	関税：12,000ルピー/t (日本円で約2万円/t)	—
	最低輸出価格導入(1,200 ドル/ト→950ドル/トに引き 下げ(2023.10.26))	2023.8.27～
パーボイルド米・精米 (HS1006 30 10)	輸出税 (20%)	2023.8.25～
バスマティ米・パーボ イルド米以外の精米 (HS1006 30 90)	輸出禁止	2023.7.20～ 2024.12.31
碎米 (HS1006 40 00)	輸出禁止	2022.9.9～

※食料安全保障上の理由でインド政府が認める場合は、輸出を許可。
※有機米は本措置の対象外。
資料：インド政府の公示等をもとに農林水産省にて作成。

＜ 中国 ＞ 東部から南部の早稲の生育は平年より早く良好

【生育・生産動向】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、2023年7～9月の豪雨等により東北部(特に吉林省、黒竜江省及び遼寧省)で作付面積が引き下げられたことを受け、前年度比0.9%減の144.6百万トンの見込み。ただし、良好な土壌水分等を受け、単収は史上最高の見込み。なお東北部では、政府による大豆作付推進政策の反動を受けコメ作付面積が減少傾向にある。

USDA及び中国国家気象センター「中国気象農業頻道」(2024.4.8)によると、東部から南部にかけて、3月中旬から平年を上回る気温と平年よりも多い降雨が見られ、南東部では作付けされたばかりの早稲の生育に良好な条件となった。ただ、3月下旬から、南東部及び南部のほとんどの地域で季節外れの高温(30度以上)となり、特に南東部の早稲の生育に負荷がかかったが、4月初旬に豪雨があり、平年並みの気温に戻ったため早稲のストレスは軽減された。3月末現在、長江下流域の早稲は育苗期にある。南部の大部分は発芽期から移植・栄養生長期にある。平年より発育が早く、生育は良好。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の消費量は、前月予測から1.7百万トン下方修正され、2023年9月以降のとうもろこし価格低下を受けた飼料用米の需要減少や、高齢化の進展や若年層の食生活の西洋化等に伴う食用需要の減少から、前年度比4.4%減の148.2百万トンの見込み。

2023/24年度の輸入量は、国際価格高騰による昨今の輸入量の減少から、前月予測から0.4百万トン下方修正され、前年度比61.2%減の1.7百万トンの見込み。中国はこれまで、もち米や香米に加え、特にとうもろこし等飼料用穀物の価格高騰を背景に、代替としてインド等から碎米を輸入してきたが、2022年9月以降、インドの輸出禁止等により輸入量は規制前の年度(2021/22年度、6.0百万トン)と比較して71.7%減少している。中国海関統計によれば、2024年1～2月の輸入量は21.8万トン(前年同月比64.1%減)、2023年1～12月の輸入量は259.7万トン(前年同期比57.8%減)となった。輸入国別では、1位がタイ(40.3%)、2位はミャンマー(38.1%)、3位がベトナム(9.6%)の順。

また、2023/24年度の輸出量は、本年3月の輸出量が予想を下回ったことから、前月予測から0.3百万トン下方修正され、2023/24年度の輸出量は、前年度とほぼ同水準の1.7百万トンの見込み。「一帯一路」政策の賛同国を拡大する目的から、同政策の関係国に対しコメの輸出促進を図っており、主要輸出先は、同政策の賛同国であるエジプトやトルコ。

期末在庫量は、消費量の下方修正を受け、前月予測から1.6百万トン上方修正されたものの、前年度比3.4%減の103.0百万トンの見込み。ただし、インドの期末在庫量(35.0百万トン)と合計すると世界の期末在庫量の約80%を占める。

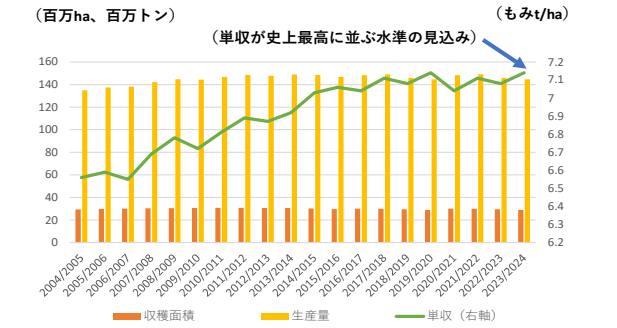
コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年7月～24年6月)			
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)	
生産量	149.0	146.0	144.6 (144.6)	-	▲ 0.9	
消費量	156.4	155.0	148.2 (148.0)	▲ 1.7	▲ 4.4	
輸出量	2.1	1.7	1.7 (2.2)	▲ 0.3	▲ 2.3	
輸入量	6.0	4.4	1.7 (2.7)	▲ 0.4	▲ 61.2	
期末在庫量	113.0	106.6	103.0 (101.4)	1.6	▲ 3.4	
期末在庫率	71.3%	68.0%	68.7% (67.5%)	2.0	0.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	29.92	29.45	28.95 (29.45)	-	▲ 1.7	
単収(もみt/ha)	7.11	7.08	7.14 (4.96)	-	0.8	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 April, 2024)
IGC「Grain Market Report」(14 March, 2024) (単収は精米/ha)

図： 中国の生産量、収穫面積、単収の推移 (2004/05～2023/24年度)



資料：USDA「PS&D」(2024.4.11)をもとに農林水産省にて作成

< タイ > 乾季米は灌漑用水不足や高温等から減産見込み

【生育・生産動向】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、2023年5月から9月中旬にかけての平年を下回る降雨量から、前年度比4.4%減の20.0百万トンの見込み。

USDA及び現地情報によると、前年11月中旬から続く乾期の中、エルニーニョ現象の影響により、2月初旬から平年以上の気温の上昇がみられ、3月中旬には40度を超える暑さとなった。下旬には季節外れの降雨があったものの、3月末から4月中旬にかけて、再び40度以上と平年より高温となった。高温不稔による単収減少防止のため、灌漑用水を増水したものの、乾季米が収穫の最盛期を迎える中、水源の制約等から、作付面積、収穫量が前年度比で減少する見込み。

アセアン食料安全保障情報システム(2024.4)及び現地情報によると、乾季米は収穫期にある。作付面積は1.54百万ヘクタールで、収穫進捗率は70%。干ばつと激しい寒暖差で、中央部でイネ白葉枯病が発生したことから、単収は昨年度より減少の見込み。収穫面積も減少するため、生産量は昨年度より12%程度減少の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、減産見込みから、前年度比3.9%減の8.4百万トンの見込み。

タイ関税局によれば、2024年1～2月の輸出量は、前年同期比24.4%増の174.8万トンとなった。このうち、政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大しているインドネシア向けの輸出量は、前年同期の25.4万トンから倍増して51.1万トンと、最大の輸出先国となった。また、エルニーニョ現象による降雨不足で減産が見込まれるフィリピンは18.1万トン（前年同期1.3万トン）、米国は13.3万トン（同10.9万トン）、検疫問題で7年間輸入を停止していたタイ産米の輸入を2022年に再開したイラクは10.6万トン（同16.4万トン）をそれぞれ輸入した。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2024.4.11）によれば、4月9日までの週のタイ産米（長粒、2等精米）の輸出価格は、新穀の流入から値を下げ、前月から26ドル／トン下落し、590ドル／トンとなった（P.20の「長粒種のFOB価格の推移」を参照）。なお、2023年12月中旬以降、不安定な情勢が続く紅海を迂回することによる、欧州や中東向けの輸送コストの増加や輸送日数の増加が懸念されている。

期末在庫量は、消費量の上方修正から前月より0.1百万トン下方修正され、減産予測から前年度比20.8%減の3.1百万トンの見込み。

コメータイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (24年1月～24年12月)			
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)	
生産量	19.9	20.9	20.0 (19.7)	-	▲ 4.4	
消費量	12.5	12.5	12.5 (12.7)	0.1	-	
輸出量	7.7	8.7	8.4 (8.4)	-	▲ 3.9	
輸入量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	100.0	
期末在庫量	4.1	3.9	3.1 (3.2)	▲ 0.1	▲ 20.8	
期末在庫率	20.5%	18.1%	14.6% (15.2%)	▲ 0.6	▲ 3.5	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	10.70	11.07	10.65 (11.00)	-	▲ 3.8	
単収(もみt/ha)	2.81	2.86	2.85 (1.89)	-	▲ 0.3	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 April, 2024)
IGC「Grain Market Report」(14 March, 2024)（単収は精米t/ha）

表：タイの国別輸出量

(単位：万トン)

国名	2023年 1-2月	2024年 1-2月	増減量
1 インドネシア	25.4	51.1	25.7
2 フィリピン	1.3	18.1	16.8
3 米国	10.9	13.3	2.5
4 イラク	16.4	10.6	-5.8
5 コートジボアール	0.5	10.0	9.5
6 セネガル	9.9	6.3	-3.5
7 南アフリカ	8.9	6.2	-2.7
8 アンゴラ	0.8	4.7	3.8
9 中国	6.7	5.2	-1.5
10 日本	7.9	3.8	-4.1
計	140.5	174.8	34.3 (前年比24.4%増)

資料：タイ関税局（2024.4）

< ベトナム > 南部メコンデルタ地域の冬春作（乾季米）は海水侵入で生産量減少

【生育・生産動向】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、単収が過去最高だった前年度の水準からわずかに減少も、収穫面積の増大により、前年度比 0.2%増の 27.0 百万トンの見込み。なお、肥料価格の高騰や高収益作物等（果物・野菜・養殖）への転換等から、生産量が史上最高の 2014/15 年度（28.2 百万トン）を境に緩やかな低下傾向にある。

アセアン食料安全保障情報システム（2024.4）によると、①北部は、冬春作（乾季米）が分けつ期から幼穂形成期にある。良好な天候と豊富な灌漑用水から、単収は増加見込み。②南部では、冬春作（乾季米）が収穫期にある。1.89 百万ヘクタールの作付面積のうち、現時点の収穫面積は 0.92 百万ヘクタール（48.7%）。現時点での単収は、6.8 もみトン／ヘクタール。メコンデルタ地域の海水の浸潤から生産量は平年より減少の見込み。③メコンデルタ地域では、夏秋作（雨季米）の作付が始まった。現在の作付面積は 0.24 百万ヘクタール。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の実輸出量は、2024 年 3 月の輸出が予想を上回ったことから、前月予測から 0.2 百万トン上方修正されたものの、アジア諸国等からの精米輸入需要が落ち着く見込みから、前年度比 2.8%減の 8.0 百万トンの見込み。

USDA 及び現地情報によれば、2022/23 年度の実輸出量は、フィリピンによる史上最高の輸入量の継続見込みや、インドネシアの 2023 年中の追加需要を受け、8.2 百万トンと前年度比 15.5%増で史上最高の見込み。特にインドネシアは、エルニーニョ等によるコメの減産見込みや、燃料価格高騰による投入財費用の高騰から、国内コメ価格が上昇。価格抑制のための在庫放出に加え、低所得世帯へのコメ配給等を受け、政府が設定する最低水準以下に在庫が低下。これを補うため、2023 年（1～12 月）は合計 306.3 万トンを輸入し、うちベトナム産の輸入は 114.8 万トン（37.5%）。なお、2024 年 1～4 月のコメの収穫量も前年度比で減少する見込みから、インドネシア政府は合計 360 万トンの輸入枠を決定した。

ベトナム関税総局によれば、2024 年 1～3 月の輸出量は 218.2 万トンと、前年同期（185.3 万トン）に比べ 17.8%増加した。主な輸出先国は、フィリピン（101.1 万トン、13.4%増）、インドネシア（44.5 万トン、199.7%増）、マレーシア（9.9 万トン、28.8%増）、コートジボワール（9.2 万トン、91.7%増）の順。

USDA 「Grain: World Markets and Trade」(2024.4.11)によれば、ベトナム産米（長粒種、5 %碎米混入）の 4 月 9 日までの週の価格は、冬春作の流入から、前月の価格より 9 ドル／トン下落し、578 ドル／トンとなった。

コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (24年 1 月～24年12月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	26.7	26.9	27.0 (28.0)	-	0.2	
消 費 量	21.4	21.4	21.2 (21.9)	-	▲ 0.9	
輸 出 量	7.1	8.2	8.0 (8.1)	0.2	▲ 2.8	
輸 入 量	1.7	1.8	2.3 (1.6)	0.7	27.8	
期末在庫量	2.7	1.8	1.9 (2.6)	0.5	5.6	
期末在庫率	9.3%	6.0%	6.4% (8.6%)	1.7	0.4	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.10	7.10	7.15 (7.11)	-	0.7	
単収(もみt/ha)	6.01	6.07	6.05 (3.90)	-	▲ 0.3	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (11 April, 2024)
IGC 「Grain Market Report」 (14 March, 2024) (単収は精米t/ha)

図：長粒種の FOB 価格の推移



資料：USDA 「Grain: World Markets and Trade」 (2024.4.11)より。

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2023/24 年度

生産量 前年度比  前月比 

・パラグアイで上方修正されたものの、南アフリカ等で下方修正され前月から下方修正された。史上最高の見込み。

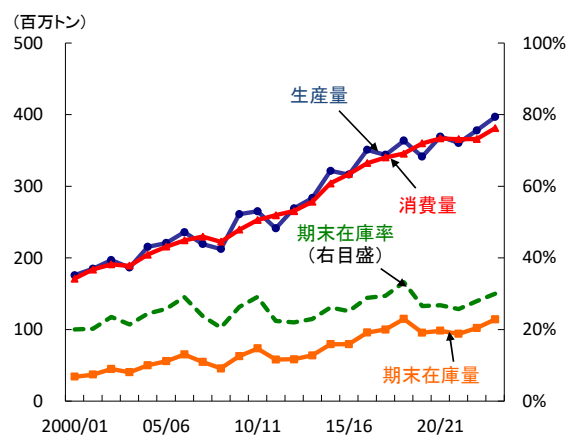
消費量 前年度比  前月比 

・EU 等で上方修正されたものの、米国等で下方修正され前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比  前月比 

・パラグアイ等で上方修正されたものの、米国、南アフリカ等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比  前月比 



資料：USDA「PS&D」(2024. 4. 11)をもとに農林水産省で作成

◎ 世界の大豆需給

(単位：百万トン)

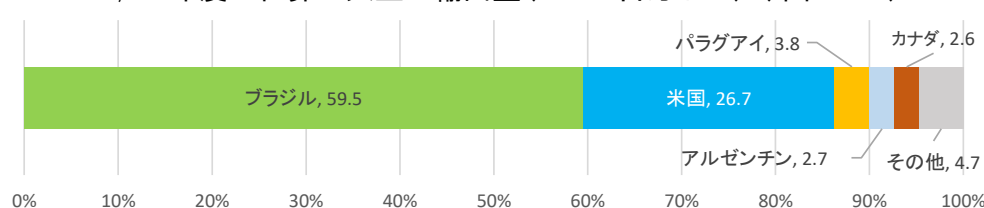
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	360.5	378.2	396.7	▲ 0.1	4.9
消費量	366.0	365.8	381.1	▲ 0.8	4.2
うち搾油用	316.5	315.0	328.0	▲ 0.2	4.1
輸出量	154.4	172.1	173.1	▲ 0.6	0.6
輸入量	154.5	167.9	170.3	▲ 0.4	1.5
期末在庫量	93.1	101.3	114.2	▲ 0.0	12.7
期末在庫率	25.4%	27.7%	30.0%	0.1	2.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 April 2024)

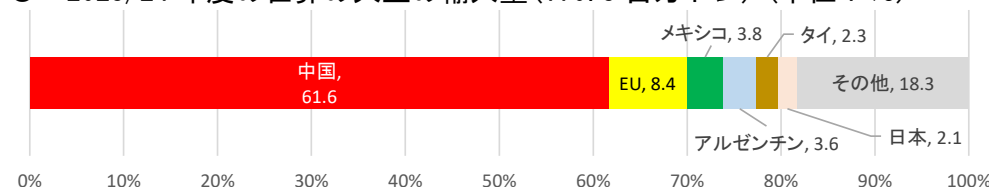
○ 2023/24 年度の世界の大豆の生産量 (396.7 百万トン) (単位：%)



○ 2023/24 年度の世界の大豆の輸出量 (173.1 百万トン) (単位：%)



○ 2023/24 年度の世界の大豆の輸入量 (170.3 百万トン) (単位：%)



（２）国別の大豆の需給動向

＜ 米国 ＞ 2024/25 年度の作付意向面積は、前年度より 3.5%増

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の減少を受け前年度より 2.5%減の 113.3 百万トンの見通し。肥料価格の高騰が前年度から落ち着いたことを受けた大豆からとうもろこしへの作付転換により、大豆の収穫面積が減少したとみられる。

USDA「Prospective Plantings」（2024.3.28）によれば、これから作付けされる 2024/25 年度の作付意向面積は、35.0 百万ヘクタールと、前年度より 3.5%増の見込み。現在の価格相場は大豆の作付けに有利であるため、多くの農家がとうもろこしから大豆の作付けに切り替えるとみられる。

USDA「Crop Progress」（2024.4.15）によれば、作付進捗率は前年度同期並みの 3 %と、過去 5 年平均（1 %）を上回っている。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」（2024.4.16）によれば、4 月上旬、中西部の一部地域で降雨過多により作付作業が遅れたものの、作物の発芽に必要な水分量が確保された。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、作付意向面積が 2 月のアウトルック・フォーラムでの予想を下回ったことによる種子用等消費の引下げを受けて前月予測から 0.3 百万トン下方修正されたものの、バイオ燃料・飼料用需要増による搾油の収益改善の見通しから、前年度より 4.3%増の 65.7 百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、直近の輸出ペースを受けて前月予測から 0.5 百万トン下方修正され、前年度より 14.6%減の 46.3 百万トンの見込み。8 割以上の収穫が進展したブラジル産、収穫が開始したアルゼンチン産と比べ相対的な価格競争力が落ちていることが要因とみられる。また、米国国内のバイオ燃料用消費量が増加していることも要因である。

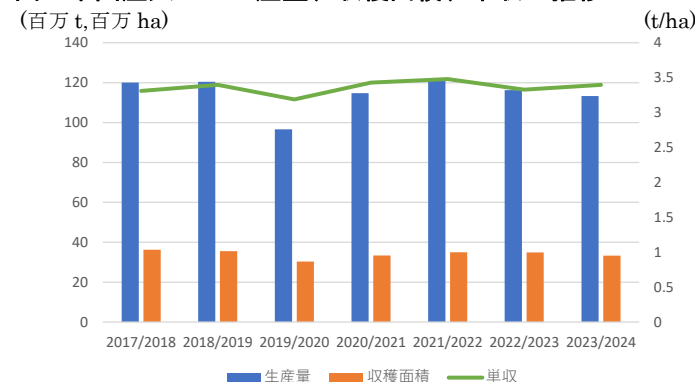
USDA によれば、2023/24 年度の期末在庫量は、輸出量の引下げを受けて前月予測から 0.7 百万トン上方修正され、前年度より 28.8%増の 9.3 百万トンとなる見込み。期末在庫率は 8.3%で、過去 5 年平均（11.0%）を下回っており、引き続き低水準に留まる見通し。

大豆－米国

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年 9 月～24年 8 月)		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生 産 量	121.5	116.2	113.3	－	▲ 2.5
消 費 量	62.9	63.0	65.7	▲ 0.3	4.3
うち搾油用	60.0	60.2	62.6	－	4.0
輸 出 量	58.6	54.2	46.3	▲ 0.5	▲ 14.6
輸 入 量	0.4	0.7	0.7	▲ 0.1	1.5
期末在庫量	7.5	7.2	9.3	0.7	28.8
期末在庫率	6.2%	6.1%	8.3%	0.7	2.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	34.92	34.87	33.33	－	▲ 4.4
単収(t/ha)	3.48	3.33	3.40	－	2.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (11 April 2024)

図 米国産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA「PS&D」（2024.4.11）をもとに農林水産省にて作成

表 米国の大豆輸出量と輸出先国

2024年3月			2022/23年 (2022年9月～2023年8月)			2021/22年 (2021年9月～2022年8月)		
国	輸出量	シェア	国	輸出量	シェア	国	輸出量	シェア
中国	190.5	62.7	中国	3123	59.8	中国	2997	52.6
メキシコ	31	10.2	メキシコ	455.8	8.7	メキシコ	532.5	9.4
インドネシア	19	6.3	ドイツ	321.6	6.2	エジプト	396.8	7
日本	12.8	4.2	日本	208.7	4.0	ドイツ	291.8	5.1
ドイツ	12.7	4.2	インドネシア	188.1	3.6	日本	224.3	3.9
その他	37.9	12.4	その他	922.7	17.7	その他	1254.2	22.0
計	303.9	100	計	5219.9	100	計	5696.6	100

資料：USDA「Federal Grain Inspection Service Yearly Export Grain Totals」をもとに農林水産省にて作成。

＜ ブラジル ＞ 2023/24 年度の生産量 (CONAB) は前年度より 5.2%減

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、155.0 百万トン。作付面積は史上最高となるものの、単収が減少することから、生産量は史上最高の前年度より 4.3%減も、引き続き高水準を維持している。

ブラジル食料供給公社 (CONAB) の月例報告 (2024.4.11) によれば、2023/24 年度の実生産量は、とうもろこし等から収益性が高い大豆に作付けがシフトすることで収穫面積が増加するものの、生育初期の高温乾燥による単収減から前年度より 5.2%減の 146.5 百万トンの見通し。中西部マツト・グロッソ・ド・スール州と南部パラナ州、南東部サンパウロ州等における降雨不足と高温を受けて、前月予測から 0.3 百万トン下方修正された。

USDA によれば、4 月 8 日現在、パラナ州の収穫進捗率は 97%と、前年度同期 (94%) を上回り、収穫はほぼ完了している。CONAB によれば、4 月 8 日時点の全国の収穫進捗率は 76%、最大生産州のマツト・グロッソ州では 98%とほぼ完了した。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、減産による供給減を受けて前年度より 0.3%減の 56.8 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量が 2 年連続で高水準を維持し、価格競争力も高まる見込みから、前年度より 7.8%増の 103.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年 1～3 月の輸出量は 22.1 百万トンで、前年度同期 (19.1 百万トン) に比べ 15.7%増となっており、中国向け輸出が昨年引き続き堅調に推移していることが要因。輸出先は、中国 (15.9 百万トン)、スペイン (8.2 百万トン)、タイ (0.8 百万トン) の順。大豆収穫後の 3 月となり、輸出最盛期に入っている。

2023 年 6 月、北部のマラニョン州イタキ港と南部のサンパウロ州サントス港を結ぶ南北鉄道が開通した。さらに、マツト・グロッソ州から南部サントス港まで輸送する鉄道の拡張工事も行われており、これらのアクセス改善が輸出のボトルネックを回避する一助になることが期待されている。

大豆ーブラジル

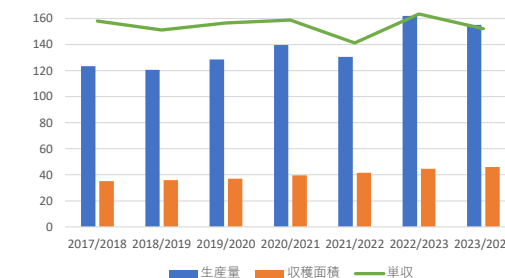
(単位: 百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	130.5	162.0	155.0 (160.0)	-	▲ 4.3
消 費 量	54.0	56.9	56.8 (58.0)	-	▲ 0.3
うち搾油用	50.7	53.1	53.0 (55.0)	-	▲ 0.2
輸 出 量	79.1	95.5	103.0 (101.7)	-	7.8
輸 入 量	0.5	0.2	0.5 (0.5)	-	200.0
期末在庫量	27.6	37.4	33.1 (2.2)	-	▲ 11.5
期末在庫率	20.7%	24.5%	20.7% (1.4%)	-	▲ 3.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	41.60	44.60	45.90 (41.49)	-	2.9
単収(t/ha)	3.14	3.63	3.38 (3.86)	-	▲ 6.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 April 2024)
IGC 「Grain Market Report」(14 March 2024)

図 ブラジル産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移

(百万 t, 百万 ha) (t/ha)



資料: USDA 「PS&D」(2024.4.11) をもとに農林水産省にて作成。

ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

2023/24年度の実作付けは、2023年9月以降、順次開始。
2024年2月以降、大豆の収穫が行われ、その後、一部の圃場で冬とうもろこしを栽培。

2023/24年度	2023年				2024年								
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし (リオ・グランデ・ド・スール 州等)	作付 4.0(百万ha)				収穫 23.4(百万t) → 収穫夏冬作計 111.0百万t								
冬とうもろこし (マツト・グロッソ州、 パラナ州等)	作付面積夏冬作計 20.4百万ha ←				作付 16.4(百万ha) → 収穫87.6(百万t)								
大豆 (マツト・グロッソ州、 パラナ州等)	作付 45.2(百万ha)				収穫 146.5(百万t)								

資料: CONAB穀物レポート (2024.4.11)

＜ アルゼンチン ＞ 2023/24 年度の生産量は、前年度より倍増

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、高温・乾燥の影響を強く受け大幅な減産となった前年度から回復する見通しから、前年度の 2 倍の 50.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン政府によれば、4 月 11 日現在、大豆の収穫進捗率は 10%と、前年度同期（4 %）より進んでいる。

USDA によれば、4 月上旬、温かい天候で降雨に恵まれ、遅植え作物の生育に好影響となった。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、増産に伴い搾油量が回復することから、前年度比 16.9%増の 42.8 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】2023/24 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内生産量の増加に伴い輸入需要が減少することから、前年度より 32.7%減の 6.1 百万トンの見込み。

2023/24 年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、干ばつにより減産し価格競争力が弱まった前年度から生産量が回復する見込みから、前年度より 9.8%増の 4.6 百万トンの見込み。

なお、2024 年 1～2 月の輸出量は、前年度の干ばつによる減産からの回復を受けて 385.7 万トンで前年度（259.9 万トン）より 48%増。輸出先は、ベトナム（72.4 万トン）、アルジェリア（64.6 万トン）、ペルー（52.4 万トン）の順。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021 年 1 月以降、輸出税を大豆最大 33%、大豆油及び大豆粕 31%と設定。2022 年 3 月に、大豆油及び大豆粕の輸出税について 2022 年末まで 2 %引き上げたが、2023 年 1 月からは 31%に戻している。

2023 年 12 月 10 日、新大統領に右派のミレイ氏が就任した。同 12 日、経済相は通貨ペソの公式レートを現行の 1 ドル＝350 ペソから 50%以上切り下げ、1 ドル＝800 ペソにした。また、大豆の輸出税は引き続き最大 33%に設定すると発表した。

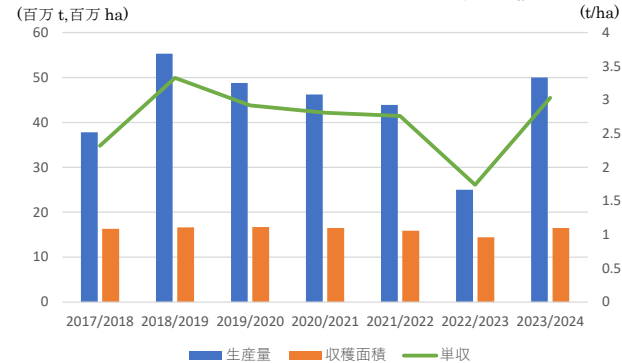
なお、「OIL WORLD Weekly」（2024.2.2）によれば、政府は、大豆油及び大豆粕の輸出税を 31%から 33%に引き上げることを検討していたものの、農業団体等の強い抵抗を受けて断念し、当面の間 31%のまま維持される見通し。ペソの更なる切下げも見送られている。

大豆ーアルゼンチン

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	43.9	25.0	50.0 (50.0)	-	100.0
消 費 量	46.0	36.6	42.8 (49.3)	-	16.9
うち搾油用	38.8	30.3	35.5 (42.3)	-	17.1
輸 出 量	2.9	4.2	4.6 (4.9)	-	9.8
輸 入 量	3.8	9.1	6.1 (5.7)	▲	32.7
期末在庫量	23.9	17.2	26.0 (10.8)	-	50.8
期末在庫率	48.9%	42.2%	54.8% (19.9%)	-	12.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	15.90	14.40	16.50 (15.87)	-	14.6
単収(t/ha)	2.76	1.74	3.03 (3.15)	-	74.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (11 April 2024)
IGC 「Grain Market Report」 (14 March 2024)

図 アルゼンチン産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA 「PS&D」 (2024.4.11) をもとに農林水産省にて作成。

写真：北部サンタフェ州の大豆の圃場風景
(2024 年 3 月 26 日撮影)



本圃場の大豆は、通常より
遅い 11 月中旬に作付された。
生育ステージは完熟期であり、
1・2 月の高温乾燥にも
関わらず莢付きは良い。
収穫作業は 4 月中旬が見込
まれている。

< 中国 > 2023/24 年度の生産量・消費量・輸入量は史上最高

【生産・生育状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、中国国
家統計局による収穫面積及び単収の増加見込みを受けて前年度より 2.8%増の 20.8 百万トンで史上
最高の見込み。

なお、例年、4 月後半から主産地の黒竜江省等で作付けが開始される見込み。

2 月 3 日に発表された中国共産党・国務院（内閣に相当）の中央一号文件には、引き続き大豆の作
付け確保や単収の向上等の取組等について記載された。

USDA 「Grain and Feed Annual」(2024.4.2)によれば、政府は大豆ととうもろこしの間作を奨励
しており、2023/24 年度に間作の面積は、130 万ヘクタールと、前年度から 30%増加した。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、旺盛な食料需
要に加え、国内の畜産物需要から大豆粕需要が増加することから、前年度より 2.6%増の 120.5 百万
トンと史上最高の見込み。ただし、業界情報によれば、直近では中国の経済成長が鈍化し、豚肉の価
格が低迷する中、中国政府は 3 月から国内の養豚飼育数の生産目標を減らす供給過剰対策を開始し
ており、飼料用需要減少につながるとの見方もある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、ブラ
ジルからの輸入増により前年度より 0.5%増の 105.0 百万トンと史上最高の見込み。

農業農村部によれば、2024 年 1・2 月の輸入量は、前年度同期より 8.8%減の 1,303.7 万トン。内
訳は、ブラジル（696.4 万トン）、米国（495.7 万トン）、カナダ（68.2 万トン）の順となっている。
ブラジルと米国を合わせたシェアが 9 割以上を占めている。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 2 月号」によると、2 月の国内価格は、春節等の休
日が重なったため売買活動が不活発となったことにより、5,620 元/トンと前月（5,660 元/トン）から
下落した。

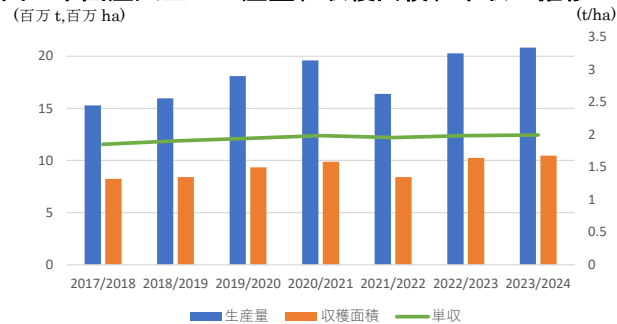
USDA によれば、2023/24 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 16.2%
増の 37.6 百万トンと史上最高の見込み。2023/24 年度の期末在庫率は、前月予測からの変更はなく、
前年度より 3.7 ポイント増の 31.2%となる見込み。

大豆－中国

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	16.4	20.3	20.8 (21.5)	-	2.8
消 費 量	110.3	117.5	120.5 (124.4)	-	2.6
うち搾油用	90.0	96.0	98.0 (102.5)	-	2.1
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	11.1
輸 入 量	90.3	104.5	105.0 (103.0)	-	0.5
期末在庫量	25.2	32.3	37.6 (39.9)	-	16.2
期末在庫率	22.8%	27.5%	31.2% (32.1%)	-	3.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.42	10.24	10.47 (8.40)	-	2.2
単収(t/ha)	1.95	1.98	1.99 (1.95)	-	0.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 April 2024)、
IGC 「Grain Market Report」(14 March 2024)

図 中国産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024.4.11)をもとに農林水産省にて作成。

表 中国産大豆の輸入量と輸入元国

2024年1・2月			2023年1月～2023年12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	696.4	53.4	ブラジル	6,993.0	70.7
米国	495.7	38.0	米国	2,374.3	24.0
カナダ	68.2	5.2	アルゼンチン	199.2	2.0
アルゼンチン	21.3	1.6	カナダ	146.6	1.5
ロシア	14.8	1.1	ロシア	129.3	1.3
ウルグアイ	3.2	0.2	南アフリカ	14.7	0.1
その他	4.1	0.3	その他	38.6	0.4
計	1303.7	100	計	9,895.7	100

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

< カナダ > 2024/25 年度の生産量は 6.9 百万トンの見込み (AAFC)

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省 (AAFC) 「Outlook for Principal Field Crops」(2024.4.19)によれば、2023/24 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 6.7%増、過去 5 年平均比も 6.8%増の 7.0 百万トンの見込み。単収が 3.09 トン/ヘクタールと、前年度並みの史上最高となり、収穫面積が 2.26 百万ヘクタールと前年度より 6.6%増と大幅に増加することによる。収穫面積の増加は、マニトバ州において前年度の史上最高の単収を受け農家が作付面積を増やしたことが要因とみられる。

カナダ統計局「Principal field crop areas, 2024」(2024.3.11)によれば、2024/25 年産の作付意向面積は、前年度より 1 %減の 226 万ヘクタールとなった。前年度に作付面積が大幅に増加したマニトバ州において、作付面積が前年度より 7.2%減と減少に転じることが主な要因とみられる。

AAFC によれば、2024/25 年度の実産量は、作付面積が前年より減少することを受け、前年度から 1 %減の 6.9 百万トンの見込み。大豆価格が低下しているものの、大豆粕需要と輸出は堅調であり、生産量は微減に留まるとみられる。土壌水分量は現時点で十分とみられる。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 12.2%増の 2.9 百万トンの見込み。バイオ燃料需要増による搾油の収益改善が見込まれていることによる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、増産による輸出余力の増大を受けて、前年度より 7.3%増の 4.6 百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会 (Canadian Grain Commission) によれば、2023/24 年度 (2023 年 8 月～2024 年 7 月) の 2023 年 8 月～2024 年 2 月の輸出量は 321.8 万トンで、前年度同期 (297.1 万トン) を上回っている。国別では、中国 (143.9 万トン) が 40%以上のシェアを占め、次いでアルジェリア (54.9 万トン)、イラン (54.6 万トン)、イタリア (15.0 万トン) の順となっている。2022/23 年度の中国向け輸出量は、前年度比で 12%増の 128.8 万トンとなっており、3 年連続で増加している。

AAFC によれば、2023/24 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、増産により前年度から 26.3%増の 0.5 百万トンの見込み。

大豆－カナダ

(単位：百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年8月～24年7月)		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	6.2	6.5	7.0 (7.0)	-	6.7
消 費 量	2.3	2.6	2.9 (2.5)	-	12.2
うち搾油用	1.8	1.8	1.9 (1.8)	-	6.4
輸 出 量	4.3	4.2	4.6 (4.9)	-	7.3
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.5)	-	-
期末在庫量	0.4	0.6	0.7 (0.4)	-	4.8
期末在庫率	6.5%	9.5%	9.1% (5.7%)	-	▲ 0.4

(参考)

収穫面積(百万ha)	2.08	2.12	2.26 (2.26)	-	6.6
単収(t/ha)	2.99	3.09	3.09 (3.09)	-	-

資料：USDA「PS&D」
「World Agricultural Production」(11 April 2024)
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(19 April 2024)

図 カナダの直近 3 か年の生産量等の推移

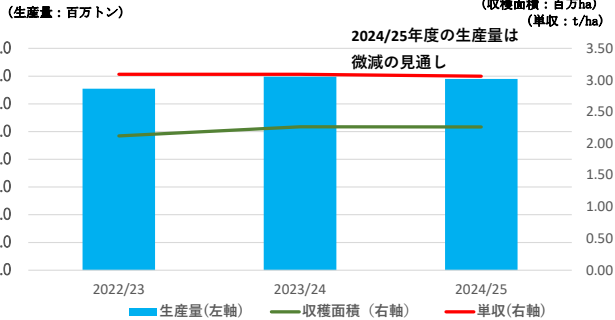


表 カナダ産大豆の輸出量と輸出先国

(輸出量：万トン、シェア：%)

2024年2月			2023/24年度 (2023年8月～2024年2月)			2022/23年度 (2023年8月～2024年2月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
中国	16.8	85.3	中国	143.9	44.7	中国	128.8	43.3
アルジェリア	2.9	14.7	アルジェリア	54.9	17.1	イラン	44.8	15.1
米国	0.1	0.5	イラン	54.6	17.0	アルジェリア	32.1	10.8
			イタリア	15.0	4.7	イタリア	25.1	8.4
			その他	53.4	16.5	その他	66.3	22.3
計	19.7	100.0	計	321.8	100.0	計	297.1	100.0

資料：カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)のデータ

をもとに農林水産省にて作成。

(参考1)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2023/24年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	23年6月～24年5月	23年9月～24年8月	23年8月～24年7月	23年9月～24年8月
カナダ	23年8月～24年7月			23年8月～24年7月
豪州	23年10月～24年9月		24年3月～25年2月	
EU	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月		
中国	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月
ロシア	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月		23年9月～24年8月
ウクライナ	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月		
ブラジル		24年3月～25年2月	24年4月～25年3月	23年10月～24年9月
アルゼンチン	23年12月～24年11月	24年3月～25年2月		23年10月～24年9月
タイ			24年1月～12月	
インド	23年4月～24年3月		23年10月～24年9月	
ベトナム			24年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
 例えば、2023/24年度は、米国の小麦では2023年6月～2024年5月、ブラジルのとうもろこしでは2024年3月～2025年2月です。
 なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる)	0.027216	メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772	メトリックトン	大麦	
	0.025401	メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515	メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359	メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.40469	ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16	ヘクタール	タイ
1 亩(ムー)	0.0667	ヘクタール	中国

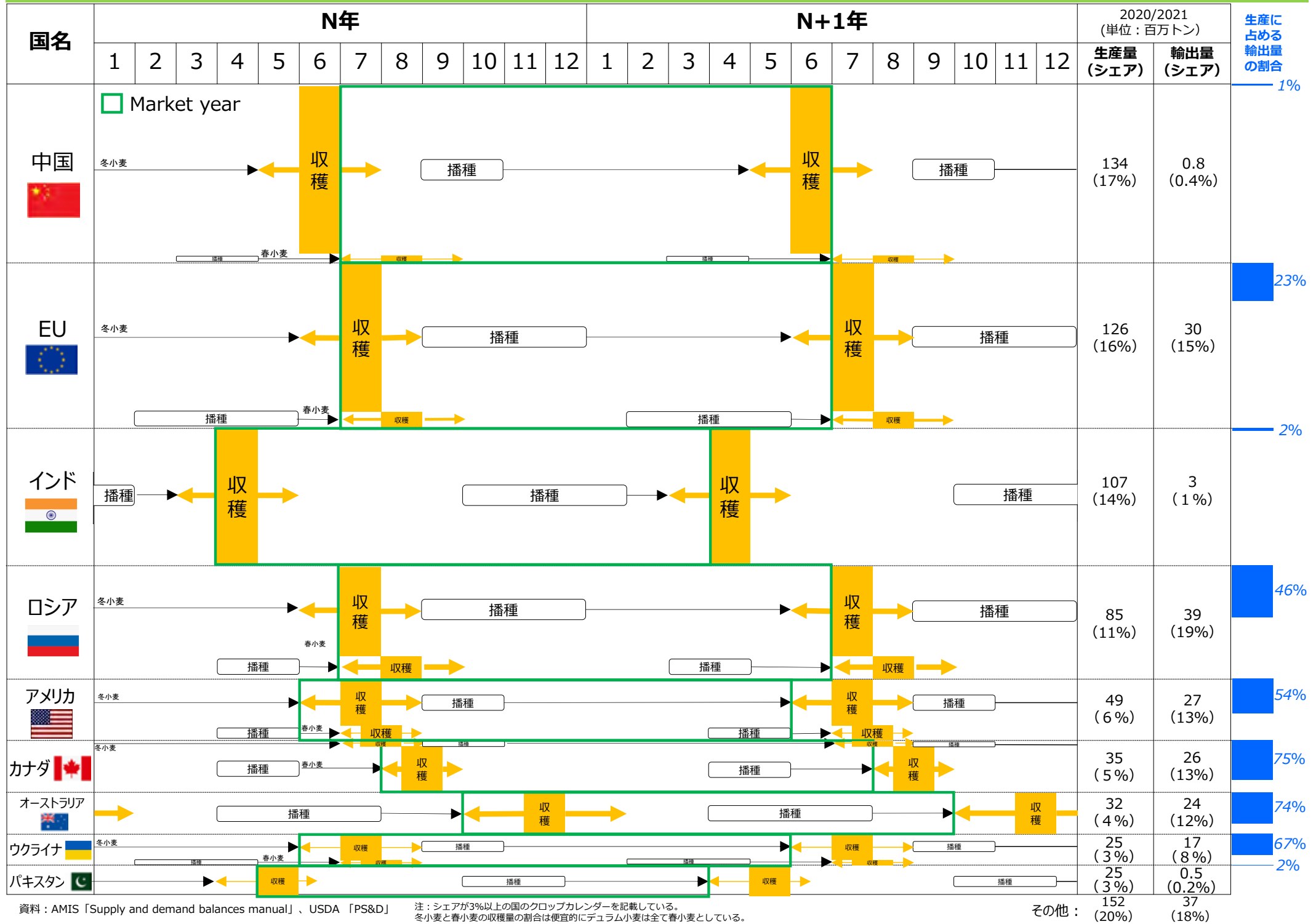
3 その他

1ガロン	4.536	リットル	英国
1ガロン	3.785	リットル	米国
1LAKH(ラーク)	10万	位取り	インド
1斤	500g	重量	中国
華氏→摂氏 : $^{\circ}\text{C} = (^{\circ}\text{F} - 32) \div 1.8$			

(参考3)各国のクロップカレンダー一覧(主要品目毎)

主要生産国のクロープカレンダー(小麦)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



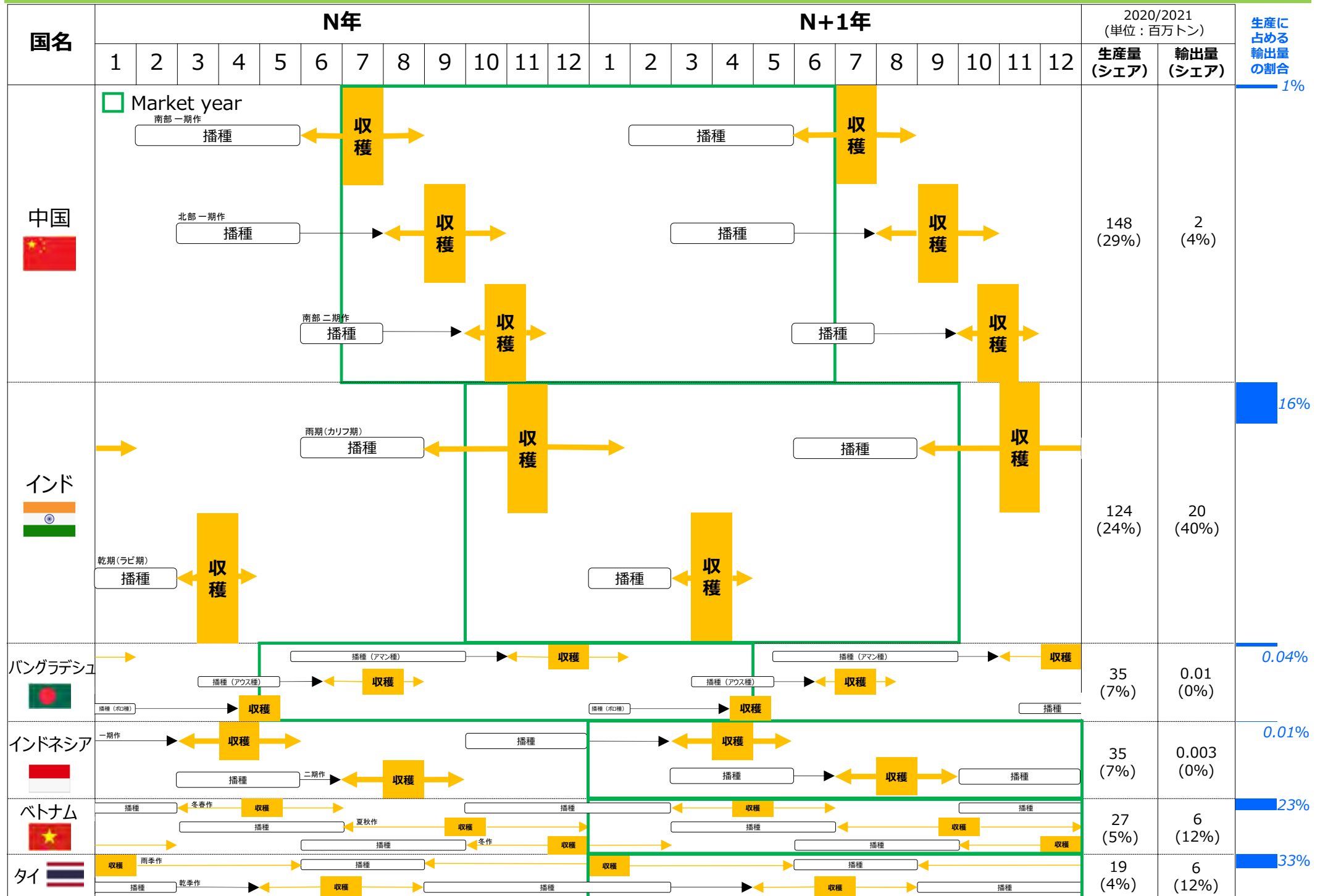
資料 : AMIS 「Supply and demand balances manual」、USDA 「PS&D」

注 : シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。
冬小麦と春小麦の収穫量の割合は便宜的にデュラム小麦は全て春小麦としている。

その他 :

主要生産国のクロップカレンダー(米)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」

注：シェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。

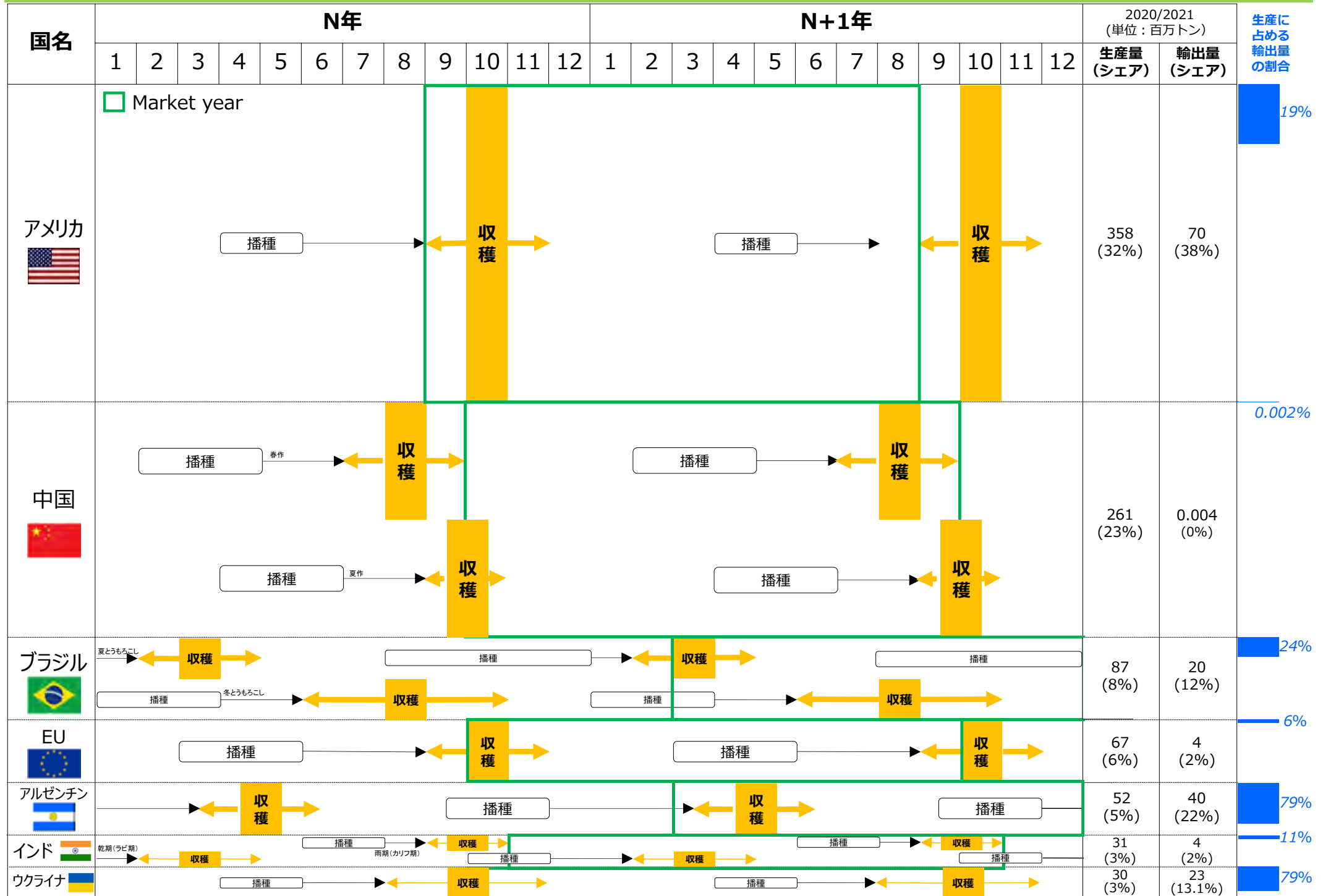
その他：

121
(24%)

16
(32%)

主要生産国のクロープカレンダー(とうもろこし)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



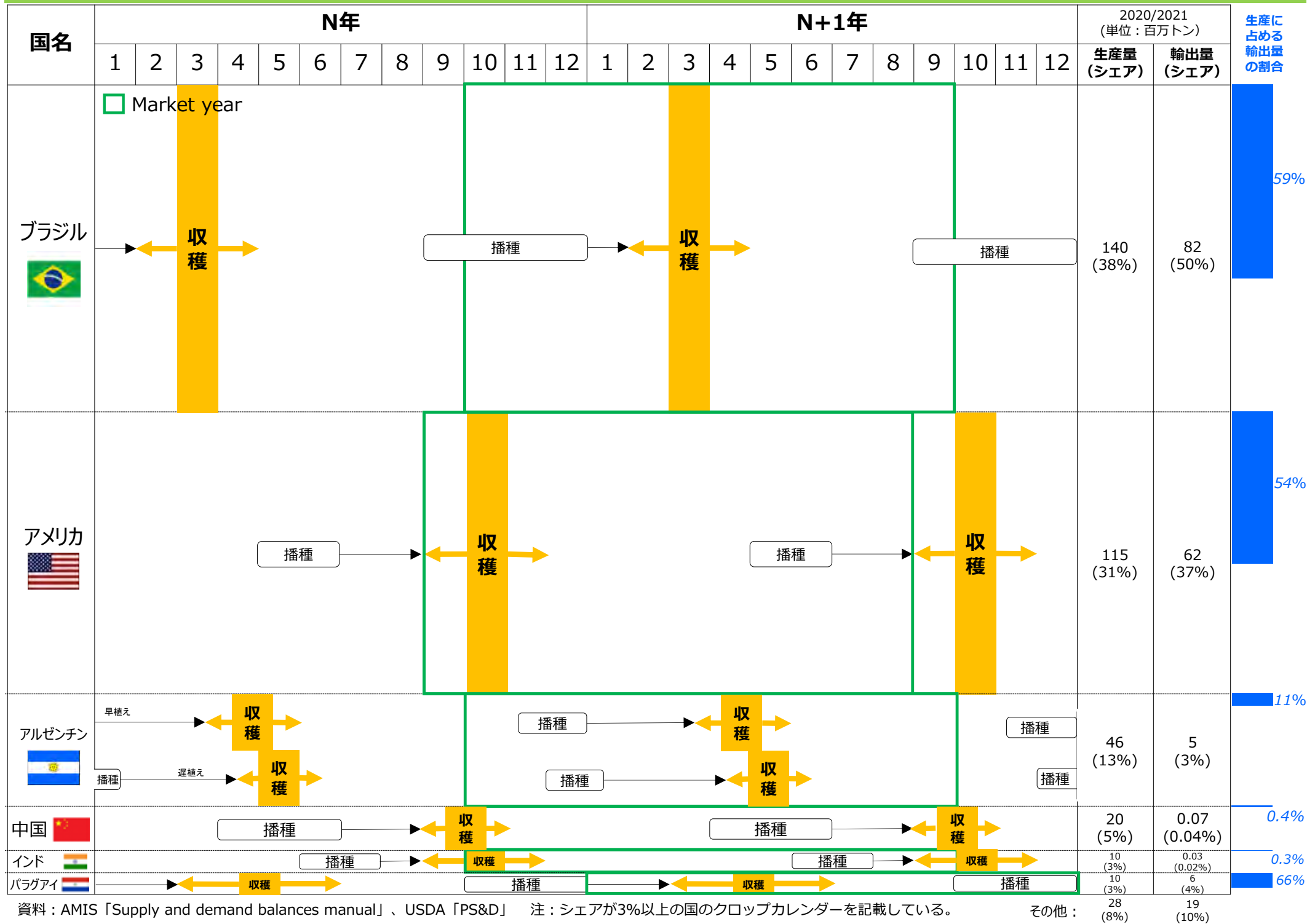
資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」

注：シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。

その他：242 (19%) 21 (11%)

主要生産国のクロップカレンダー(大豆)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



主要生産国のクロップカレンダー(菜種)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

